

報告事項 才

平成30年度鳥取県教科用図書選定審議会の第1次、第2次答申について

平成30年度鳥取県教科用図書選定審議会の第1次、第2次答申について、別紙のとおり報告します。

平成30年7月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成30年4月26日

鳥取県教育委員会  
教育長 山本仁志様

鳥取県教科用図書選定審議会  
会長 谷中久和



平成31年度に使用する小学校教科用図書、中学校教科用図書並びに特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の採択に関する事項について（第1次答申）

平成30年4月26日付けで諮問のあった平成31年度に使用する小学校、中学校並びに特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の採択に関する下記の事項について、別添のとおり答申します。

#### 記

- 1 平成31年度に使用する小学校教科用図書（特別の教科 道徳を除く）の採択基準について
- 3 平成31年度に使用する中学校教科用図書（特別の教科 道徳）の採択基準について
- 5 平成31年度に使用する特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の採択基準について
- 7 市町村教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く）の校長が採択する場合に県教育委員会が行うべき役割について
- 8 県が設置する義務教育諸学校において使用する教科用図書の採択について

## 平成31年度に使用する小学校教科用図書（特別の教科 道徳を除く）の採択基準

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令並びに同法施行規則の示すところに基づき、平成31年度に小学校（特別支援学校の小学部を含む。）において使用する教科用図書（特別の教科 道徳を除く）について、市町村教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く）の校長の行う採択に関し、基準を定める。

- 1 小学校（特別支援学校の小学部を含む。）で使用する教科用図書（特別の教科 道徳を除く）の採択は、学校教育法附則第9条の規定による一般図書（特別支援学校・学級用）を除き、「小学校用教科書目録（平成31年度使用）」に登載されている教科書のうちから採択する。
- 2 採択地区内の市町村教育委員会は、協議して同一の教科用図書を採択するため、地区採択協議会を設けるとともに、採択に関する協議は、県教科用図書選定審議会と対等の立場でこれを行うものとする。
- 3 採択は、県教育委員会の提供する「選定に必要な資料」に基づき、地域や児童生徒の実態等を考慮し、十分な調査研究のもとに市町村教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く）の校長が行う。

## 平成31年度に使用する中学校教科用図書（特別の教科 道徳）の採 択基準

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令並びに同法施行規則の示すところに基づき、平成31年度に中学校（特別支援学校の中学部を含む。）において使用する教科用図書（特別の教科 道徳）について、市町村教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く）の校長の行う採択に関し、基準を定める。

- 1 中学校（特別支援学校の中学部を含む。）で使用する教科用図書（特別の教科 道徳）の採択は、学校教育法附則第9条の規定による一般図書（特別支援学校・学級用）を除き、「中学校用教科書目録（平成31年度使用）」に登載されている教科書のうちから採択する。
- 2 採択地区内の市町村教育委員会は、協議して同一の教科用図書を採択するため、地区採択協議会を設けるとともに、採択に関する協議は、県教科用図書選定審議会と対等の立場でこれを行うものとする。
- 3 採択は、県教育委員会の提供する「選定に必要な資料」に基づき、地域や児童生徒の実態等を考慮し、十分な調査研究のもとに市町村教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く）の校長が行う。

## 平成31年度に使用する特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の採択基準

- 1 特別支援学校の小学部及び中学部において平成31年度に使用する教科用図書は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第13条第6項の規定により、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を除き、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（平成31年度使用）」に登載された教科書のうちから採択する。
- 2 小学校及び中学校の特別支援学級において平成31年度に使用する教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を除き、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条に定めるところにより、小学校においては平成30年度、中学校においては平成27年度に採択された同一の教科用図書とすること。
- 3 特別支援学校及び特別支援学級において使用する学校教育法附則第9条の規定による教科用図書の採択については、県教育委員会の提供する「選定に必要な資料」に基づき、児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等を十分考慮すること。

## 市町村教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く）の校長が採択する場合に県教育委員会が行うべき役割

県教育委員会は、市町村教育委員会及び義務教育諸学校（公立の義務教育諸学校を除く）の校長に対し、次のことに留意し採択を実施するよう指導、助言又は援助するものとする。

### 1 専門的な調査研究の充実について

- (1) 選定資料が、学習指導要領に示された「目標」及び「内容」に即して各教科書の特徴等がわかるものとなるようにすること。
- (2) 学校教育に経験豊かな者のうちから、適切な数の調査員を選任し配置すること。

### 2 適正かつ公正な教科書採択の推進について

- (1) 採択権者は公正確保の徹底を図るとともに、自らの権限と責任において適正な採択を行うこと。
- (2) 地区採択協議会で協議して採択する場合は、関係市町村教育委員会の意向が十分反映されるよう工夫すること。
- (3) すべての検定済教科書を対象とした調査研究を行うとともに、調査員の権限と責任の範囲を明らかにすること。

### 3 開かれた教科書採択の推進について

- (1) 採択結果及び採択理由、選定資料、会議録、協議会委員及び調査員の氏名等を採択事務の支障のない範囲で公表すること。
- (2) 教科書展示会の来場者の意見を教科書採択事務の改善等に活用すること。

## 県が設置する義務教育諸学校（県立特別支援学校）において使用する教科用図書の採択について

### 採択方針

各県立特別支援学校においては、「教科書選定委員会」を設置し、各学校における児童生徒の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて最も適切と思われる教科用図書を選定し、県教育委員会に採択申請を行う。県教育委員会は各学校長からの採択申請に基づいて審査を行い、採択する。

### <根拠法令>

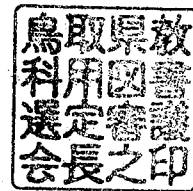
#### 採択の規定（義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条）

- 県立特別支援学校において使用する教科用図書の採択は、あらかじめ選定審議会の意見を聞いて、種目ごとに一種の教科用図書について行うものとする。
- 県立特別支援学校において使用する教科用図書は、「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録」に登載された教科用図書のうちから採択しなければならない。
- 県立特別支援学校、特別支援学級においては、学校教育法附則第9条の規定により、目録に登載されている教科用図書以外のものを使用することができる。

平成30年6月12日

鳥取県教育委員会  
教育長 山本 仁志 様

鳥取県教科用図書選定審議会  
会長 谷中 久和



平成31年度に使用する小学校教科用図書、中学校教科用図書並びに特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の採択に関する事項について（第2次答申）

平成30年4月26日付けで諮問のあった平成31年度に使用する小学校、中学校並びに特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の採択に関する下記の事項について、別添のとおり答申します。

記

- 2 平成31年度に使用する小学校教科用図書（特別の教科 道徳を除く）の選定に必要な資料について
- 4 平成31年度に使用する中学校教科用図書（特別の教科 道徳）の選定に必要な資料について
- 6 平成31年度に使用する特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の選定に必要な資料について



平成31年度に使用する小学校教科用図書の  
選定に必要な資料

平成30年度作成

鳥取県教科用図書選定審議会

# 国語

国 語	国 語	番号 2	略称 東書	書名 新しい国語
-----	-----	------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字が教材の脚注に示され、巻末の新出漢字一覧には画数や筆順と合わせてまとめられている。</p> <p>イ 「言葉の力」として、身に付けさせたい力（指導事項）が各単元に明確に示されている。（3年上P45） また、巻末にも「言葉の力のまとめ」が掲載されている。（3年上P152～153）</p> <p>ウ 「ことばの広場」のページを設定して、語彙指導への配慮がなされている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「国語の学習を進めよう」と題して、どのように学習を進めるのが全学年とも巻頭に明確に示されている。</p> <p>イ 3年生より上の学年では、自主的・発展的学習を促進するため、調べ学習の手立てが示されている。（5年P272～273） 2年より上の学年では、国語のノートの作り方の例が示されている。（3年上P22）</p> <p>ウ 単元末の「ひろがる」で、学校での学習を家庭学習等に生かすための示唆が提示されている。（各学年）</p> <p>エ 各学年の「本は友達」では、本の紹介だけでなく、記録の残し方や読書の幅の広げ方なども掲載されている。また、発展読書教材として「こんな本もいっしょに」が示されている。（3年上P45）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 各単元に振り返りの項目があり、課題を意識化できる構成となっている。（3年上P52☑マーク）</p> <p>イ 単元のはじめに「単元のとびら」があり、単元のねらい等を示している。「話す・聞く」「書く」の領域を組み合わせ構成している単元が多い。</p> <p>ウ 「読む」学習をもとに「話す・聞く」に展開させる構成が多く取り入れられている。（言語活動例の提示）</p> <p>エ 「図書館へ行こう」など、図書館の利用指導に関連したページが設けられている。（3年上P24）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 巻頭の折込み見開き2ページの「1年間の見通しをもとう」等で、1年間の言葉の力（付けたい力）等が見通せる。</p> <p>イ 音読・朗読で1年間の学習がスタートし、音読・朗読で終わるよう構成されている。5、6年生は上下巻ではなく、1冊にまとめられている。</p> <p>ウ 「表現」「書くこと」の領域において、身近な題材を取り上げている。</p> <p>エ 「ひろがる」「つながる」などの学習の展開を意識した言葉で、他の単元とのつながり等の、系統立てた学習の積み上げが分かるように取り扱われている。（3年上P72、P81）</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 伝統的な言葉に広がりを持たせられるような教材が取り入れられている。（6年P78）</p> <p>イ ローマ字は3、4年生で繰り返し取り上げている。</p> <p>ウ 「コミュニティデザイン」「プレゼンテーション」などコミュニケーションに関する内容が取り入れられている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 環境問題に対する身近な取組を呼びかける文章が掲載されている。</p> <p>イ 読字に課題がある子どもに配慮して、ページの行末がなるべく句点で終わるようにされている。</p> <p>ウ キャリア教育の視点が学年に合わせて取り入れられている。（P192～）</p>

国 語	国 語	番号 1 1	略称 学図	書名 みんなと学ぶ 小学校国語
-----	-----	--------	-------	-----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 漢字の新出または読みかえの新出箇所には、本文にルビを振って読みを表示し、さらに脚注に新出・読みかえの區別をするマークを付けて抽出している。</p> <p>イ 単元末に「国語のカギ」を取り入れており、「話す・聞く」「書く」の領域で付けたい力を明記している。 (3年上P21)</p> <p>ウ 国語の特質に関する事項について、語句・語法は「言葉のきまり」に、言葉や語句に対する知識は「言葉の泉」に、そして、漢字の成立由来等の興味関心づけは、「漢字の部屋」などに整理して扱ってある。(3年上P56、P38、P24)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 巻末に「資料編」というコーナーを設け、「授業で使う言葉」「話し方、聞き方、まとめ方」などを掲載している。</p> <p>イ 巻頭に教科書の使い方を配置して、学習の見通しを持たせたり、教科書で使っている印(マーク)の意味を示したりしている。(3年上P5)</p> <p>ウ 図解・イラスト・写真が多く取り入れられている。</p> <p>エ 上・下巻で読書活動への展開をねらった読書単元「本と友達」を設置し、読書案内等を取り入れ読書活動の日常化を示唆している。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「話す・聞く」「書く」の単元には「この単元の流れ」を単元の初めに示し、主体的な学びの手助けとしている。 (各学年。3年上P50)</p> <p>イ 単元冒頭に1行で、単元のめあてを示している。</p> <p>ウ 「学習のてびき」で、読解の手順や過程を詳しく示している。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各学年とも、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動それぞれが、他の領域の学習活動と組み合わせながら、配置されている。</p> <p>イ 各学年とも上下巻の2冊ずつの構成になっている。</p> <p>ウ 「読むこと」について、低・中学年は言語事項に、高学年では思考力に重点を置いて手引きを提示している。「読むレッスン」として、練習教材を設定している。 (3年上P28～29)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 伝統的な言語文化(昔話・俳句・百人一首・古文など)について音読を通して親しめるよう、各学年で配列している。</p> <p>イ ローマ字を、教科書に直接書き込みができるようにしている。(3年上P108～110)</p> <p>ウ 全学年とも「言葉で伝えよう」と題して、コミュニケーションに関する内容として、各学年とも系統立てて取り扱われている。(3年下P62～63)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 学び合いの基礎づくりとして、巻頭に「学級づくり」のページを設けている。</p> <p>イ 教科の時間でどのような力をつけようとしているのか保護者向けに、巻末にページを設けて、学習事項を分かりやすくまとめている。(3年上P148)</p> <p>ウ 実際の点字を印刷した資料ページがあり、手で触れて実感できる工夫がなされている。</p>

国語	国語	番号 15	略称 三省堂	書名 小学生の国語
----	----	-------	--------	-----------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「あたらしいかん字を学ぼう」として、単元の終わりに見開きで新出漢字を取り上げている。年間の見通しをもって、漢字学習ができる。</p> <p>イ 2年生以上には、単元末に「おぼえておきましょう」を設けており、基礎的・基本的な言語の定着を図ったり、他の学習に活用したりすることができる。</p> <p>ウ 2年生以上に「学びを広げる」（別冊）があり、その中の「言葉のポケット」において、言語事項や学習用語の定着が図られている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学びを広げる」（読書・言葉についての別冊資料）があり、他教科との関連や読書の場面など必要に応じて参照できる。</p> <p>イ 2年生以上に、夏休み前の時期に「あまんさんの部屋」を位置付け、読書に親しむ機会を設定している。</p> <p>ウ 全学年に「図書館へ行こう」を設定し、主体的な図書館の活用を図っている。（3年P12～13）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 単元の終わりには単元のめあてと関連付けて、学習活動を見開きにまとめている。</p> <p>イ 単元冒頭に1行で、単元のめあてを示している。</p> <p>ウ 単元末に、読解の手順や過程を詳しく示している。</p> <p>エ 単元の中に言語事項の定着を目指した「言葉」のページを設定している。 （3年P32、68、90、92、110、121、138、156、196）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 巻頭に「～年生で学習すること」が見開きで領域別に示され、1年間の学習を見通すことができる。</p> <p>イ 教材同士の関連、連続性が考慮されている。 （2年「お手紙」→「手紙をこうかんしよう」）</p> <p>ウ 2～6年までの各学年に国語辞典、3～6年の各学年に漢字辞典の活用に関する教材を配列している。</p> <p>エ 巻頭の「～年生で学習すること」に「話すこと・聞くこと」では5つのめあて、「書くこと」では7つのめあてを設け、系統的に学習内容を配列している。</p> <p>オ 2年生以上は上下なしの1巻で、年間の見通しを持たせることができる。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 児童が親しみやすい伝統的な言語文化を、教材として取り上げ音読中心の学習を設定している。「わたしの本だな」では、関連読書教材を取り上げている。（3年P172～177）</p> <p>イ 身の回りのローマ字、コンピュータの入力など日常生活と結びつけながら学習できる。（3年P118～121）</p> <p>ウ 「話す・聞く」教材を多く配置し、コミュニケーション力の育成を図っている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 全ての教材が見開きの右ページから始まり、特に文学教材は見開き単位での場面展開をしている。</p> <p>イ 大きめの文字を使用している。</p> <p>ウ 防災の視点の教材（5年「十秒が命を守る」）が、取り上げられている。</p>

国 語	国 語	番号 17	略称 教出	書名 小学国語
-----	-----	-------	-------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「漢字の広場」が設けられ、テーマに沿って、ドリル形式を取り入れたり、短文作りを取り入れたりしながら、語彙の拡充を図れるようになっている。 (2年上P50～53、P98～99)</p> <p>イ 各単元末に「ここが大事」と題して、指導事項が明確に示されている。(3年上P72)</p> <p>ウ 教材に出てきた言葉だけでなく、同じ語を含む他の使い方も示しながら、文作りを促し、語彙を広げる工夫がなされている。(4年下P85上段)</p> <p>エ 単元末の「言葉について広げたり、使ったりするコーナー」に、例文が掲載されている。(4年下P19、P131)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「話す・聞く」「書く」の単元で、学習の進め方が脚注にまとめて示されている。(3年上P50)</p> <p>イ ノートづくりの単元を設定したり、「漢字学習ノート」のコーナーで漢字ノートの書き方を具体的に例示したりしている。(3年上P56)</p> <p>ウ 1、2年生の教材には、興味を引くしかけが工夫されている。(1年上巻頭「穴を空ける」、1年上巻末「カード」、2年下巻末「紙人形」など)</p> <p>エ 「～年生で読みたい本」の紹介が上下にそれぞれあり、さらに学年に合わせてテーマに沿った本の紹介も掲載されている。(3年下P141～142)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 単元の構成を「読む」学習をもとに「書く」学習に展開させるなど、「書く」ことの指導を充実させている。 (3年上P26)</p> <p>イ 単元冒頭に、単元のめあてと学習活動を示している。</p> <p>ウ 1つの読み物教材に対して1つの言語活動が示されている。</p> <p>エ 読み物教材の後には、教材に関連させて「本を読もう」が設定されている。(3年下P17)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 巻末の付録の「この本で学ぶこと」で系統立てた学習のつながりが分かるように示してある。(3年上P136)</p> <p>イ 習得したことを活用しながら、学びを系統的に積み重ねられるように構成されている。(5年上「情報ノートを作ろう」→6年上「考えや意見をノートにまとめよう」。 5年上「意見交換会をしよう」→6年上「未来の自動車～パネルディスカッションをしよう～」)</p> <p>ウ 上巻の早い時期に、学習習慣に関わる教材が設定されている。(2年上「声のものさしをつかおう」、6年上「引用して話そう」)</p> <p>エ 「漢字の広場」には、前年の学習内容が示され、復習できるようにになっている。(2年生以上。3年上P59)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 目次に「文化」という項目が明記され、全学年によく知られた作品と、四季の言葉や言葉遊びなどが掲載されている。</p> <p>イ ローマ字は3年上のみ扱いではあるが、興味をもって取り組めるよう身近な例が示されている。(P130～135)</p> <p>ウ 学び合いがいろいろな場面に設定され、活動がイメージしやすいように吹き出しによって伝え合う内容が例示されている。(3年上P95、P101)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 全学年に生命尊重に関わる読み物教材が掲載されている。上学年には郷土愛、環境、国際理解に関わる教材が取り上げられている。</p> <p>イ 各学年上下巻の分冊で構成され、行間にゆとりがある。</p>

国語	国語	番号 38	略称 光村	書名 国語
----	----	-------	-------	-------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新出漢字を各ページの脚注、教材末、巻末に提示している。また、学習した漢字を復習できるように、挿絵も入れて年間6回(1ページずつ)設定している。(3年上P61)</p> <p>イ 「『たいせつ』のまとめ」として、付けたい力(基礎事項)が領域ごとに巻末のふろくにまとめている。</p> <p>ウ 思考や表現の助けとして、上巻の巻末ふろくに「言葉の宝箱」のページを設け、学年に応じた語彙を示している。</p> <p>エ 学習に用いる言葉や学習を進めるときに気を付けることが脚注に記されている。(3年上P12、P51)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 単元末に「学習」コーナーとして、単元のねらい・具体的な学習内容と流れ・振り返りまでが見開きで提示されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材では、単元の初めに学習の流れが提示されており、学習の見通しを持つことができる。(3年上P83)</p> <p>イ 基本的な学び方を「いつも気をつけよう」として、巻頭に示している。(3年上P6~7)</p> <p>ウ 挿絵の人物に吹き出しを付け、ポイントや感想の例を台詞として示し、分かりやすくしている。(3年上P23)</p> <p>エ どの学年も上巻の「本は友達」の教材で図書館教育との関連を図り学習の進め方を明確に示している。</p> <p>オ 多様な教材群に加え、イメージを豊かに広げる挿絵・写真を適所に掲げるなど、学ぶ楽しさや自ら学ぼうとする意欲を引き出す工夫がある。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「読む」領域(説明文)では、練習教材と本教材がセットで掲載されている。各単元末に「振り返ろう」のコーナーがあり、視点を意識化できるようになっている。</p> <p>イ 単元のはじめに色枠が設けられ、その中に単元目標、付けたい力、言語事項が明示されている。</p> <p>ウ 手引きで、学び方・言語活動を進めるための手順や留意点(書く視点や字数制限等)が具体的に提示されている。</p> <p>エ 単元末に発展的な読書の参考図書が多数挙げられている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 巻頭の「学習を見わたそう」で1年間の学習の見通しを領域ごとにまとめている。</p> <p>イ 2年生以上に年4回の「季節の言葉」を設け、日本の季節感が感じられる言葉や文章に触れる機会を設定し、さらに自分の地域や生活に関心を持たせる働きかけがある。</p> <p>ウ 「読む」を単元の中心としながら、「話す・聞く」「書く」についても、バランスを考えて設定している。</p> <p>エ 単元末の「ふりかえろう・いかそう」のコーナーで、学習の振り返りの視点や、他教科との関連を示している。</p> <p>オ 5、6年生は上下巻ではなく、1冊にまとめられた。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 古典に親しめるよう、各学年に「きいてたのしもう」「声に出して読もう」を設定している。絵や写真、ページを多く使うなど、イメージしやすいよう構成し、伝統文化を丁寧に扱っている。</p> <p>イ ローマ字の学習後、コンピュータのローマ字入力(下)を取り扱い、自主的な学習を促している。</p> <p>ウ 自分の考えを持つことや、友達との交流が大切にされており、各学年の初めに、「言葉の準備運動」としてコミュニケーション力の育成をねらった教材がある。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 震災から復興に携わる人が扱ってある(5年)</p> <p>イ 著作権についてのコラムが掲載されている。(5年P84)</p>





# 書 写

国語	書写	番号2	略称 東書	書名 新しい書写
----	----	-----	-------	----------

	項目	特徴
学習方法の工夫について	① 基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 始筆から送筆、さらに終筆までの筆の動きがよくわかるように「トン、スー、ピタ」などの擬態語を用いて示されている。</p> <p>イ 文字の組み立てや筆順がよくわかるように、効果的な色分けがされている。(1年P26 2年P20 3年P20 4年P14)</p>
	② 自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 児童自身が課題意識を持って取り組めるように「調べよう、確かめよう、広げよう」という学習の流れが示されている。</p> <p>イ 他の学習事項との関わりが確認しやすいようにインデックスを設けている。(3～6年)</p> <p>ウ 1年間の初めと終わりに名前を書く欄を設け、自分の成長を意識させるような工夫が見られる。(1、2年巻頭)</p> <p>エ 自己評価にシールが活用できる。(1、2年)</p> <p>オ 巻末にこれまで学んだ大事なポイントが全て示されている。</p>
内容の構成・配列について	③ 単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「硬筆に広げよう」では、毛筆で学習した原理・原則を硬筆に生かすよう構成されている。(3年以上)</p> <p>イ 最終単元では、1年間の学びを振り返り、自分のめあてを決めて取り組む「まとめの教材」が示されている。</p>
	④ 各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「確かめよう」では、学習の前後の作品を見比べて、よくなったところを友達と伝え合う活動が位置づけられている。(3年以上)</p>
	⑤ 特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「生活に広げよう」が各学年で示されている。特に高学年では、社会科見学や修学旅行など、場面に応じて書写で学習したことが生かせるように工夫されている。 (4年P28～30 5年P28～33 6年P28～33)</p> <p>イ 「ノートに書こう」では、他教科で活用できるようノート例も示されている。 (1年P11 2年P13 3年P25 4年P27 5年P23 6年P19)</p>
その他	⑥ 今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 裏表紙に「保護者の方へ」というメッセージを記載し、書写教育についての理解を求めている。</p> <p>イ 「文字に込められた思い」「いろいろな大きさの文字」など、写真資料が充実している。(巻末)</p> <p>ウ ワイドな紙面で書き込み欄が多い。</p> <p>エ 「書いて味わおう」では、伝統文化に触れられる工夫がある。 (1、2年P36 3、4年P31 5、6年P34,35)</p>

国語	書写	番号11	略称 学図	書名 みんなと学ぶ小学校書写
----	----	------	-------	----------------

	項目	特徴
学習方法の工夫について	① 基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 運筆の仕方がわかるように言葉と写真で示されている。(3年P18)</p> <p>イ 筆圧について、丁寧に示されている。(3年P7)</p> <p>ウ マスの中に書くときの位置がわかるように1～4の部屋を示して説明している。(1年P8～ 2年P13)</p> <p>エ 小筆の使い方、おろし方、しまい方等、筆記具の扱い方が具体的に示されている。(3年P19)</p>
	② 自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学習の進め方」では、自主的な学習になるように、書写の技能を獲得するプロセスを図や写真を使って示されている。 (1年P26,27 2年P8,9 3年P20,21 4年以上巻頭)</p> <p>イ 手本が実物大で掲載されており、名前の書く位置も示されている。 (3年P16,17 4年P8,9 5年P14,15)</p> <p>ウ 学習用語についての詳しい説明がある。(3年P7 5年P4)</p> <p>エ 硬筆のワークシートが充実している。</p> <p>オ 自己評価にシールが活用できる。(1、2年)</p>
内容の構成・配列について	③ 単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各単元とも毛筆から硬筆につなげる学習構成となっている。</p> <p>イ 「曲がり・おれ・そり」等、特に気を付けさせたい項目を取り上げた単元構成になっている。(3年P18,19 4年P30,31)</p>
	④ 各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア ありがちな間違いの例をあげ、手本と見比べて考えられるような単元構成になっている。(5年P26 6年P13,24)</p> <p>イ 4年「くらべてみよう」では、手書き(毛筆・硬筆)とコンピューターの字を比べ、それぞれのよさに気付くような単元構成になっている。(4年P38,39)</p>
	⑤ 特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「発展のページ」では、中学校書写へつなげる工夫として、行書が取り上げられている。(6年P34,35)</p>
その他	⑥ 今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 獲得した技能が生かせる場(かんさつカード・プログラム・ノート・新聞・プレゼンフリップなど)を示している。 (2年P38 4年P26,27 5年P28,29)</p> <p>イ 裏表紙に「保護者の方へ」というメッセージを記載し、書写教育についての理解を求めている。</p> <p>ウ いろいろな筆記具が取り上げられている。(2年P37)</p> <p>エ 伝統文化に触れられる工夫がある。</p>

国語	書写	番号15	略称 三省堂	書名 小学生の書写
----	----	------	--------	-----------

	項目	特徴
学習方法の工夫について	① 基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 字を書くまでの段階を丁寧に扱い、1年では「ゆびでなぞる」活動を多く取り入れている。 イ 部分と部分の関係を「ゆずりあい」という言葉で説明している。 (4年 P20, 22)
	② 自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア どの学年も、硬筆のワークシートが充実している。 (高学年も書き込むページが多い)
内容の構成・配列について	③ 単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 「ひろげよう」では、国語の学習と関連した教材が紹介されている。(1年 P39, 40 2年 P16, 17, 36 3年 P16, 17, 34, 35 4年 P34, 35 5年 P32, 33 6年 P28, 29) イ 中学年では「ほ先の向きは十時半」「によろはつかず離れず」「力をぬいたり、くわえたり」など、筆使いや字形の整え方を強く意識した単元名、単元構成になっている。(3, 4年)
	④ 各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 高学年は「考えよう→(硬筆で)書いて確かめよう→毛筆で確かめよう」という学習展開で、考える活動を重視し、教材を比較・検討し、気づいたことを生かして書く構成になっている。 (5年 P5, 8, 10, 14, 18 6年 P5, 8, 10, 12, 14, 18)
	⑤ 特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「速さを考えながら書こう」では、電話で聞いて名前をメモする場合と封筒に宛名を書く場合を想定し、実際に書いてふさわしい速さが実感できるように構成されている。(6年 P10) イ 「学習のまとめ」では、共同的に文字を書く活動が取り上げられている。(5年 P34, 35 6年 P30, 31)
その他	⑥ 今日的な教育課題との関わりなど	ア 資料「書写学習のヒント」では、「場面にふさわしい書く速さ」「書く目的と筆記具・書き方の関係」「白紙への書き方」など、様々な書字場面で活用できるようにヒントが示されている。 (6年 P33~35)

国 語	書 写	番号 1 7	略称 教出	書名 小学 書写
-----	-----	--------	-------	----------

	項 目	特 徴
学習方法の工夫について	① 基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 硬筆では、マスの中に書くときの位置がわかるように1～4の部屋を示している。(1年 P11, 16, 17)</p> <p>イ 1年巻末で運筆の流れを「とん、すう、ぴた」等の擬態語を用いて説明している。(1年 P41)</p> <p>ウ 毛筆の入門期である児童によくわかるよう、筆圧を(①ちゅん②とっ③とん)と擬態語で示している。(3年 P7, 16, 17)</p> <p>エ 「筆順通りに書くことの大切さ」が各学年に応じてわかりやすく示されている。 (2年 P12, 13 3年 P37 4年 P18, 19 5年 P13)</p>
	② 自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 学習用語(書き順、縦画、横画、筆圧、配列等)が具体的に示されている。(1年 P25 3年 P7, 11, 25)</p> <p>イ 自主学習ができるように「学習の進め方」が詳しく示されている。(3、4年 P3～9)</p>
内容の構成・配列について	③ 単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各単元とも毛筆から硬筆につなげる学習構成となっている。(3年以上)</p>
	④ 各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 硬筆から毛筆への移行がスムーズにできるように毛筆についての説明が示されている。(2年巻末)</p>
	⑤ 特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「発展」では、中学校書写へつなげる工夫として、行書が取り上げられている。(6年巻末)</p> <p>イ 「5年筆記具を使いこなそう」では目的にあった筆記具と用紙について考えさせる工夫がある。(5年 P22, 23)</p> <p>ウ 「トライあんどチャレンジ」「書いて伝えよう」では、書写で学習したことが生活の場で生かせるように手本が示されている。(1年 P34 2年 P32 3、4年 P43 5、6年 P36)</p>
その他	⑥ 今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 色のついた文字を書く時の留意点(見やすい色、薄い色で字を書いたり、濃い色を下に塗ったりすると読みにくい等)が明記されている(4年 P44)</p> <p>イ 「知りたい文字の世界」「世界のこんにちは」「文字の旅」では、文字に関する様々な情報が紹介されている。</p>

国語	書写	番号38	略称 光村	書名 書写
----	----	------	-------	-------

	項目	特徴
学習方法の工夫について	① 基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 2年生以上の全教材で「たいせつ」を設け、文字を書く時の原理・原則や普遍性の高い書き方のポイントが整理されている。</p> <p>イ 鉛筆の持ち方が具体的に示されている。(1年P4 2年P4,5)</p> <p>ウ 全ての学年の巻頭に、姿勢や筆記具の持ち方が確認できるよう、図や写真が掲載されている。</p> <p>エ マスの中に書くときの位置がわかるように1～4の部屋を示している。(1年P16)</p>
	② 自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学習の進め方」を示し、児童が見通しを持って主体的に授業に取り組めるように配慮されている。(4年以上)</p> <p>イ 低学年でも自主的に学習を進められるようにワークシートが充実している。</p>
内容の構成・配列について	③ 単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 各学年の目次に学習の生かし方や取り組み方がまとめられている。</p> <p>イ 文字を美しく書くための課題の発見から解決までのプロセスが、1ページで完結するように構成されている。</p>
	④ 各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア シールを用いて、字の組み立てやバランスを自分で確認できるような工夫が見られる。(4年P16,17)</p> <p>イ 「ほ先の動きと点画のつながり」では、語句としてのまとまりを意識して書く単元が構成されている。(6年P16～18)</p>
	⑤ 特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 3年生以上の巻末、折り込み資料に、書き初めや名前の書き方が丁寧に示されている。</p> <p>イ 「読みやすい紙面構成を考えよう」では、用途に合わせて考えられるような単元が構成されている。(5年P18～22 6年P10～13)</p>
その他	⑥ 今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 国語との関連教材を設け、様々な言語活動が紹介されている。(1年P16,17 2年P14,15 3年P16,17 4年P24,25 5年P10,11 6年P14,15)</p> <p>イ 獲得した書写力を日常生活で生かせるように、様々な手本が巻末資料で紹介されている。(手紙、原稿用紙、はがき、絵はがき、新聞、エアメール、電話メモ、ノートの書き方)</p> <p>ウ 「漢字のいろいろな書き方」では、速く書くときの許容範囲が示されている。(6年P38)</p>

国語	書写	番号116	略称 日文	書名 小学書写
----	----	-------	-------	---------

	項目	特徴
学習方法の工夫について	① 基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア マスの中を書くときの位置がわかるように1～4の部屋を示し、点や丸、かぎの書き方も取り上げられている。 (1年 P9, 15, 20)</p> <p>イ 「画のおわり」「画のとちゅう」など、指導事項がよくわかる単元名になっている。(2年 P6, 8)</p> <p>ウ 「筆順の決まり」が、どの学年でも取り上げられている。</p> <p>エ 小筆の使い方、おろし方等、筆記具の扱い方が具体的に示されている。(3年 P22)</p>
	② 自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 主教材は、「考える→確かめる→いかす(書いてみる)」の3ステップを踏みながら、段階的に学習できるように「学習の進め方」が示されている。</p>
内容の構成・配列について	③ 単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 第1単元「思い出して書こう」では、前学年での既習事項を振り返る単元構成となっている。(2年、4～6年)</p> <p>イ 最終単元では、1年間の学びを生かしながら取り組むまとめの教材が示されている。(全学年)</p> <p>ウ 学習の流れを右、お手本を左に示し、1ページで完結するように構成されている。(3年以上)</p>
	④ 各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 「画の方向」では、左払いの字を集めて、違いがわかるように示されている。(2年 P26, 27)</p> <p>イ 学習の定着を図るため、毛筆教材のいくつかに副教材を設定している。</p>
	⑤ 特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「もっと書こう」では、国語科における言語活動例を具体化したものが示されている。(1年 P34, 35 2年 P32, 33 3年 P38, 39 4年 P38, 39 5年 P38, 39 6年 P34, 35)</p> <p>イ 「書く速さのちがいを考えさせる単元が構成されている。</p>
その他	⑥ 今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「広がる学び」では、日常生活や、他教科、総合的な学習と連動したコーナーを設定している。</p> <p>イ 「筆記具の特徴をいかして書こう」は、様々な場面に応じてどの筆記具を選んだらよいかを考えさせる単元になっている。 (6年 P32, 33)</p> <p>ウ 「世界の文字でありがとう」では、様々な国の「ありがとう」が示されている。(5年巻頭)</p>





社 会

社 会	社 会	番号 2	略称 東書	書名 新しい社会
-----	-----	------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア基礎的・基本的な知識の習得と活用を促す「ことば」が別枠で表記されている。</p> <p>イ基本的な学習方法を身に付けることができるよう、「まなび方コーナー」で学習活動の進め方のポイントが示されている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア学年始めの単元で、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の進め方が紹介され、一人学びができるよう工夫されている。</p> <p>イ児童の問いに対するヒントとなる吹き出しがある。</p> <p>ウ中学年の段階では、「まなびのポイント」「調べること・調べ方」「まとめ方」を例示し、問題解決的な学習の手立てとなっている。</p> <p>エ「いかす」の段階では、社会参画と社会づくりへの提案を促している。</p> <p>(3・4下P32、5下P57、6下P108)</p> <p>オ比較や発展、補充など柔軟な扱いを可能にするため「ひろげる」のコーナーを設けている。</p> <p>(3・4下P34、35、5下P86、87、6上P125)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア歴史の小単元では、巻末年表で、時代の位置や大まかな流れがつかめるよう工夫されている。</p> <p>イ国の政治のしくみについての内容が、小単元として設定されている。(6下P34～39)</p> <p>ウ地域や学校の実態に応じて、中単元を選択できるよう設定されている。(どちらか一つを選んで学習しましょう。)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア「わたしたちの県」では、47都道府県に関心を持てるように見開き8ページを使っている。(クイズ、特産品紹介)(3・4下P128～135)</p> <p>イ教科書巻末に「次学年に向けて」のページがあり、次学年への関連や発展を示している。</p> <p>ウ見開きごとに掲載されている図や写真などの資料に通し番号がつけられている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア日本各地の優れた伝統と文化に関する教材を各学年で取り上げている。(3・4下P124、125)</p> <p>イ防災・防犯・環境など今日的な課題の単元で学習段階「いかす」を設け、社会への参画を促している。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア「これからの日本を考えよう」でアメリカ軍基地の移転や兵士による事件について表記されている。(6上P151)</p> <p>イ東日本大震災について取り上げるなど、各学年で防災に関する教材が充実している。(6下P18～29)</p> <p>ウ領土に関する記述として北方領土について詳しく触れてあり、竹島・尖閣諸島については各1文で述べている。「これからの日本を考えよう」では、北方領土の返還について表記されている。(5上P9、6上P151)</p> <p>エ深い絆で結ばれている国としてトルコを扱っている。(6下P106、107)</p>

社 会	社 会	番号 1 7	略称 教出	書名 小学社会
-----	-----	--------	-------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア「キーワード」のコラムがあり、基礎基本となる「ことば」を意識できるように工夫されている。 イ「やってみよう」「まとめる」のコーナーの中で、ワークシート形式が紹介され、ノートに学習内容をまとめる上での手がかりになっている。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア巻頭に「教科書の使い方」を設けている。また、「つかむ」「調べる」「まとめる・深める」の学習段階を明示し、問題解決の流れにそった構成となっている。 イ中学年の段階では、調べるための活動が具体的に提示されており、一人学びができるよう工夫されている。 ウ大単元の終わりに「深める」コーナーがあり、社会的な事柄に参画提案することを促している。 エ意欲や関心に応じて広く深く学習できるよう「もっと知りたい」を設定している。 オ「日本とつながりの深い国々」では、個に応じたテーマで学習を進められるよう、ページの横に見出しをつけ、調べやすいように工夫されている。 (6下P41～57)
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア地形や気候の特色をつかむために、自分たちの住む地域の気温・降水量などを記入できるようにワイドページが設けられ、比較しながら学習できる構成になっている。 (5上P21) イ「安全なくらしとまちづくり」では、火事・地震の両方の内容を扱う構成となっている。 (3・4下P20～35)
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア「わたしたちの県のまちづくり」では、教科書で扱われている県を通してまなび方を学習し、自分たちの鳥取県について学ぶ手立てとなっている。 (3・4下P110～119) イ中学年では、地域学習を進めるための技能が巻末に設定されている。
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア地図に位置づけて学習内容や学びを振り返ることができるようになっている。
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア「原子力発電」について、原子力発電所の事故(東日本大震災)により、安全性の問題について明記されている。 (3・4下P81、5下P61、6下P71) イ領土に関する記述として北方領土、竹島、尖閣諸島は別枠での記述がある。北方領土については、本文の中での説明もある。 (5上P12、43、6上P143下P43、52)

社 会	社 会	番号 3 8	略称 光村	書名 社会
-----	-----	--------	-------	-------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア身につけたい重要語句の「ことば」のコーナーを設けている。 イ「たいせつ」の囲みでは、生活の中に役立てるための学習方法を紹介している。 ウ巻末に既習事項をまとめた「たいせつ」が記載されている。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア巻頭に「教科書をヒントに学習を進めよう」のページを設け、問題解決的な手順や課題の見つけ方、調べ方、まとめ方の例を示している。 イ問題解決の流れにそった構成にするため、「ホップ」(見つける)「ステップ」(調べる・話し合う)「ジャンプ」(まとめる・広げる)の学習段階を明示している。
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア「ジャンプ」(まとめる・広げる)の学習段階の表現活動例が、具体的に提示されている。(「日本の国土クイズ大会」「ゲストティーチャーに話を聞こう」「魚料理に挑戦しよう」等) イ「世界とつながる日本」では、アメリカ、中国、ブラジル、サウジアラビアが設定され、韓国は、発展的な扱いとなっている。(6P199) ウ大単元「安全、安心、みんなの暮らし」で、火事や事故から暮らしを守る学習内容となっている。(3・4下P4～35) エ選択教材として「暮らしをささえる電気」については2ページ、「暮らしをささえる水」については18ページの扱いとなっている。(3・4下P74・75、P58～73)
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア6年の日本の歴史を「国の成り立ち」「武士の時代」「近代日本の歩み」という3つのくりに分け細分化している。 イ意欲を喚起するために絵画やキャラクターを使っている。
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア5・6年は1巻で学習内容を比較したり、関連付けたりできるようになっている。 イ東日本大震災とテレビ報道の「情報とわたしたちの暮らし」の中で、震災を取り上げて、情報の役割、受け取る側の意義等が記載されている。(5P166～173) ウ「自然環境を守る」の中で、公害病の水俣病と四日市ぜんそくを選択単元にして学習するように構成されている。(5P190～205)
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア沖縄の軍用地について本文に占領と返還についての記載がある。土地利用図の中で軍用地の占める面積を色分けて記載している。(5P51) イ「世界の中の日本」では、アメリカ軍基地の移転や兵士による事件について表記されている。6P143) ウ領土に関する記述として北方領土、竹島、尖閣諸島について別枠で記述している。(5P17、6P143)

社 会	社 会	番号 1 1 6	略称 日 文	書名 小学社会
-----	-----	----------	--------	---------

項 目		特 徴
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア基礎基本となる「キーワード」のコラムにあわせてイラストや写真も記載されている。文章中の表記も着目しやすいうように太字となっている。 イ「ふりかえってみよう」のコーナーが見開きページで設けられ、ふり返りのポイントや表現活動の手順がまとめてある。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア観察・資料活用力を育成するための多様な手立てを提示している。（「キーワード」「学び方・調べ方コーナー」「考えるヒント」「やってみよう」）
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	ア問いの旅「わたしの問題→わたしの見方考え方→疑問を持つ」を繰り返しながら追究し、最後に「振り返り、表現する」構成になっている。大単元の終わりに「大きくジャンプ」で視野を広げる構成になっている。 イ巻頭に「地図となかよしになろう」の単元を設け、地図帳の学び方、調べ方を身につける構成になっている。（3・4下） ウ歴史の導入時に、地球の誕生から日本のあゆみが実感できるように工夫されている。（6上P2～3）
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	ア「地域の発展に尽くした人々」で、安政南海大地震を扱い、津波からの避難やその後の防災に尽力した人物を扱っている。 イ調べ学習をするための資料を掲載している。（3・4上P112）
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア発展学習で、世界遺産に登録された富岡製糸場のあゆみを調べられるよう工夫されている。（6上P130～131） イ「大きくジャンプ」は世界に目を向けた内容となっている。（3・4下P60水P102災害時の国内外の支援） ウ「日本の国土と人々の暮らし」の発展的な扱いとして「メタンハイドレート」「レアメタル」の海底資源について触れている。（5上P45） エ「米作り」の学習での生産調整について「2018年をめどにやめることになった」と明記している。（5上P65）
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア領土に関する記述として北方領土について別枠で詳しく触れ、竹島、尖閣諸島については各1文で述べている。「これからの日本とわたしたち」では、北方領土や竹島、尖閣諸島について別枠や本文で触れている。（5上P9、6上P162、163） イアメリカ軍基地の移転や騒音についての記載がある。基地の整理・移転や、アメリカ軍の兵士が起こす事件についても「多くの問題をかかえている」と明記されている。（5上P27、6上P162） ウ「地震にそなえて」を選択単元とし、「自助・共助・公助」の観点で構成されている。（3・4下P94～101）

# 地 図

社 会	地 図	番 号 2	略 称 東 書	書 名 新 編 新 しい 地 図 帳
-----	-----	-------	---------	--------------------

項 目		特 徴		
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	A4判のワイドな紙面を利用して、資料には2ページ分の大きな日本地図を使用している。(P65、66)	
		イ	地図のページに「巻き尺ものさし」があり、実際の大きさを考える支援となっている。	
		ウ	文字情報(地名など)の量よりも見やすさを優先し、文字や記号を大きくし、はっきりと見やすく表記している。	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	地図中の随所に登場する人物キャラクターにより、学習意欲を高める効果がある。吹き出しの内容と該当の資料の内容が連動している。	
		イ	「日本と世界の自然」では、山の高さや川の長さの比較対象が多く、児童が自ら地図を活用して調べたいくなるよう工夫している。(P73、74)	
		ウ	「京都・奈良」「東京」の名所旧跡のイラストが添えられた縮尺5万分の1の大きな地図がある。 (P31、32) (P43~45)	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア	「ながめてみよう日本のすがた」では、北方領土から南西諸島までを一望する地図を掲載し、児童が自由に考えることができるようにしている。(P1~3)	
		イ	資料・統計のページ数が多く、教科書に出てくる順とも一致している。(P63~78)	
		ウ	日本の地図のページは、土地の高さごとに色分けした地図と都市圏については土地利用が分かる詳細な地図で構成されている。	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア	巻末には折り込み3ページを使って世界全体の地図と全ての国の国旗を一覧で掲載している。(P92~94)	
		イ	地球儀の使い方について、活動の具体例を挙げて説明している。(P51、52)	
		ウ	資料に出てくるグラフが年代別に比較できるようになっている。(P66、67、68)	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	東日本大震災をはじめ、様々な自然災害を折り込み3ページを使って一覧にした日本列島の災害地図を掲載している。(P89~91)	
		イ	オリンピックやワールドカップなど、児童の関心が高い情報を掲載している。(P77)	
		ウ	「日本の貿易」では、日本の貿易相手国・地域のグラフがある。(P69)	
		エ	歴史や文化遺産について、豊富な写真が掲載されている。(P71、72)	
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア	北方領土、竹島、尖閣諸島は島名と国境線が示されており、特に択捉島について「日本は一貫して返還を求めています。実現されていません。」と明示されている。(P13)	
		イ	日本の工業生産の発電所の分布では、原子力発電所が項目の一番上にある。(P67)	
		ウ	歴史地名・事項が青色で囲まれて示されている。地図記号の「そのほかの記号」の項目に、世界ジオパークやラムサール条約の登録地がある。(P9)	

社 会	地 図	番号 4 6	略称 帝国	書名 楽しく学ぶ 小学生の地図帳
-----	-----	--------	-------	------------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「地図のなりたちとやくそくごと」で、写真が絵地図に、絵地図が地図に変わっていく様子がまとめられている。(P5、6)	イ 日本全国を人々のくらしや営みが分かる土地利用表現と土地の高さごとに色分けしている。
	ウ 索引に、地名の種類が分かるように「市」「町」「村」が表記されている。	ア 資料のそれぞれのページに、「注目しよう」「トライ」コーナーがあり、学習のテーマが具体的に提示してある。	イ まとまりごとにインデックスがあり、児童が求めている情報を見つけやすい構成になっている。
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ウ 「見わたす地図」「地方別の地図」では、隣接地域の何ページにあるかを記号で表示している。	ア 日本全体の地形、気候、農業、工業の概要が読み取れ、各テーマを関連付けて学習できるよう、同じ縮尺で統一した図で表現されている。(P65～68)
	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	イ 日本の歴史の年表と地図の番号が連動する仕組みになっている。(P69)	ウ 同縮尺の江戸の地図を現在の東京の地図の隣に配置して、市街地の広がりや現代に残る史跡等、時代による変化を読み取れるようにしている。(P39、40)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 日本地図のページには鳥瞰図で描かれた主題図が使われていて、各地方の特徴的な土地利用の様子が分かりやすくなっている。鳥取砂丘の土地利用の様子も掲載されている。(P24)	イ 世界のページの写真は、学習内容に関係の深い写真が使われている。
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 災害が起きた時に安全に避難するための方法を考えるために、防災マップの作り方について学習展開例も入れて説明している。(P83)	イ 「自動車生産のようす」の鳥瞰図が物流を意識した構成になっている。(P34)
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ウ 伝統文化や特産品に結びつく旧市町村名を掲載している。	エ 導入の単元で、県名と県の位置、県の特徴を把握できるように工夫されている。(P2、3)
		ア 竹島、尖閣諸島、択捉島は、島名と国境線が明示されており、複数のページに詳しく書かれている。竹島について「韓国が不法に占拠しています。」、国後島について「ロシアが不法に占拠しています。」と明示されている(P12、13、16、17、18)。樺太の南半分が白色で示されており、現在は帰属が未定と示されている。(P12)	イ 国の範囲について定義づけがしてある(P11)。
		ウ 世界遺産が緑色で示されたり、歴史地名・事項が青色で囲まれたりして示されている。	



# 算 数

算 数	算 数	番号 2	略称 東 書	書名 新編新しい算数
-----	-----	------	--------	------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 定着を図る練習問題として、各単元末に「力をつけるもんだい」「しあげ」が設定されている。(1年下P10, 2年上P18～19他)</p> <p>イ 「おぼえているかな？」のページが設定されており、既習内容確認の問題や次の学習の準備の問題が用意されている。(2年上P7, 47他)</p> <p>ウ 定規やコンパス等の使い方や作図の仕方が連続写真で掲載されている。(2年上P42～43, 3年下P38～39, 4年上P68～69)</p> <p>エ これまでの学習をふり返り、確認する場面が設定されている。(5年上P34, 48)</p> <p>オ 単元「わり算の筆算(1)」のなかで、倍の意味について理解を深める内容が扱われている。(4年上P52～54)</p> <p>カ 第2学年以降の巻末には、学習したことばや記号の「さく引」が掲載されている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「新しい算数を使って学習しよう」で、教科書の使い方や学習の仕方のガイドンズが示されている。(2年上P2～3, 3年上P2～5他)</p> <p>イ 「考えよう伝えよう」では、どのように学びを進めていけばよいのかが側注に示されている。(3年上P13～15, 3年下P13～15他)</p> <p>ウ 第1学年では算数ノートの例、第2学年以降に「マイノートをつくろう」として、学びの記録の作り方が掲載されている。(1年下P11, 2年上P20他)</p> <p>エ 第3学年以降の「しあげ」には関連するページが記載され、学習内容の確認ができるようになっている。(3年上P21, 27他)</p> <p>オ 第4・5学年の各下巻末「算数おもしろ旅行」や第6学年巻末の「算数卒業旅行」では、和算や数学史など興味・関心を高める内容が取り上げられている。(4年下P111～114, 5年下P117～120, 6年P208～226)</p> <p>カ 第2学年以降、「算数自習コーナー」が設けてあり、自ら進んで取り組むことができる。(2年下P101～105, 3年上P117～124他)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「長さ、面積、体積を直接比べること」は3単元に分けて扱われている。(1年上P77～, P87～, 1年下P28～)</p> <p>イ 「2位数の加法と減法の暗算」の単元が設定されている。(3年上P64～)</p> <p>ウ 「除数が1位数で商が2位数の除法の計算」についての単元が設定されている。(3年上P112～)</p> <p>エ 第3学年以降、図形領域に特化した「かたちであそぼう」が設定されている。(3年上P67, 3年下P109他)</p> <p>オ 「折れ線グラフ」「2つの観点の表」が1つの単元で扱われている。(4年上P6～)</p> <p>カ 「測定値の平均」と「単位量当たりの大きさ」が1つの単元で扱われている。(5年下P2～)</p> <p>キ 第5学年において「比例」が独立した単元として設定されている。(5年上P30～)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 図的表現について理解を深めるための単元「ずをつかってかんがえよう」が設定されている。(1年下P56～)</p> <p>イ 単元「100より大きい数をしらべよう」では、<math>\boxed{100}</math>、<math>\boxed{10}</math>、<math>\boxed{1}</math>といった図的表現が用いられている。(2年上P50)</p> <p>ウ 「加法と減法の相互関係」の単元では、逆思考の問題をテープ図に対応させて□を用いて立式することを取り上げている。(2年下P76)</p> <p>エ 図的表現を用いる「考える力をのぼそう」が設定されている。(3年上P62～63, 3年下P20～21他)</p> <p>オ 単元「グラフや表を使って調べよう」では、棒グラフと折れ線グラフの複合グラフを扱っている。(4年上P13)</p> <p>カ 図や言葉の式を示すことにより、立式の根拠を明らかにしている。(4年上P39, 5年上P35他)</p> <p>キ 比例関係の説明に2数直線が用いられている。(5年上P32)</p> <p>ク 中学校数学の学習内容について触れられている。(6年P11, 27他)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「考えよう伝えよう」では、「問題把握」「見通し」「自力解決」「検討・討議」「まとめ」「適用」といった問題解決型の授業を意識できるようになっている。(3年下P13～15, 4年下P19～21他)</p> <p>イ 学習に見通しがもてるよう単元全体を貫く課題が設定されている。(2年上P9, 21他)</p> <p>ウ 既習を振り返り、新たな課題を発見する場面が設けられている。(1年下P2, 16, 3年上P28, 52他)</p> <p>エ 単元「三角形を調べよう」では、既習の円の学習を生かして課題が設定されている。(3年下P82～83)</p> <p>オ 単元「比例をくわしく調べよう」では、変数や定数の関係がとらえやすい平行四辺形の面積が取り上げられ、単元を通して扱われている。(6年P124～)</p>
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「環境」「防災」に関連する話題が取り上げられている。(5年下P74, 6年P120～121)</p> <p>イ 他教科との関連が意識されている。(4年上P6, 5年下P66他)</p> <p>ウ 第6学年のみ上下合本となっている。</p>
	その他	

算 数	算 数	番号 4	略称 大日本	書名 新版たのしい算数
-----	-----	------	--------	-------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 既習内容の確かめができるよう「復習」が設定されている。また、学年の巻末には「当該学年の復習」（第6学年は「6年間のまとめ」）が設定されている。 (1年P62, 78~79, 145~148他)</p> <p>イ 学習内容の定着・習熟を図る「まとめの練習」が各単元末に設定されている。 (1年P75, 100, 107他)</p> <p>ウ 定規やコンパス等の使い方や作図の仕方が連続写真で掲載されている。 (2年P48~49, 3年P94~95, 4年P86~87, 90~91)</p> <p>エ 第5・6学年には、巻末に前学年までの学習内容を確認できる「チェックアンドトライ」が設定されている。(5年P220~221, 6年P210~211)</p> <p>オ 単元「わり算のしかたを考えよう」のなかで、倍の意味について理解を深める内容が扱われている。(4年P48, 49)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 第2学年以降、目次の次に『「たのしい算数」の使い方』が掲載され教科書の使い方が示されている。(2年P2~3, 3年P2~3他)</p> <p>イ 第2学年以降の「算数の学び方」では、学び方とノートの書き方を対応させている。(2年P4~5, 3年P4~5他)</p> <p>ウ 「ふりかえろう」「学習をひろげよう」が適宜設定されており、学びの振り返りや今後の学習についての視点が示されている。(3年P13, 17, 3年P43他)</p> <p>エ 第2学年以降「レッツトライ」が設定され、自主的に学習が進められるようになっている。(2年P198~211, 3年P207~220)</p> <p>オ 各学年の巻末には「教科書に出てきた大切なことから」が掲載され、学習した言葉や記号を調べられるようになっている。(2年P221, 3年P229)</p> <p>カ 「算数たまてばこ」「もっと算数たまてばこ」が掲載され、身近な生活の話題や発展的な問題が扱われている。(2年P41, 68, 3年P102他)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「長さ、面積、体積を直接比べること」は2単元に分けて扱われている。 (1年P89~, P101~)</p> <p>イ 「2位数の加法・減法」「簡単な場合の3位数などの加法・減法」については、4単元に分けて扱われている。(2年P22~, P32~, P80~, P88~)</p> <p>ウ 「百分率」と「円グラフや帯グラフ」を別単元としている。(5年P138~, P152~)</p> <p>エ 学年内の単元や学習内容の振り返りが容易にできるよう各学年1冊にまとめられている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元「10までのかず」の「個数を比べること」では、おはじきに置き換えること、1対1対応させることが取り上げられている。(1年P20)</p> <p>イ 単元「ひき算のしかたを考えよう」では、被減数、減数、差の関係が○、△、□を用いて表されている。(2年P39)</p> <p>ウ 単元「数のしくみをしらべよう」では、⑩、①といった図的表現が用いられている。(2年P55)</p> <p>エ ドット図からテープ図、テープ図から線分図への系統が示されている。 (2年P152, 3年P7)</p> <p>オ 数式、言葉の式、図の関連が示されている。(3年P47~48)</p> <p>カ 単元「わり算のしかたを考えよう」では、立式の根拠として2数直線が用いられている。(4年P39, 110)</p> <p>キ 単元「広さの表し方を考えよう」では、発展として直角三角形の求積についても触れられている。(4年P150)</p> <p>ク 単元「立体のかさの表し方を考えよう」のなかで、比例についても扱われている。(5年P35)</p> <p>ケ 中学校との接続を意識した「数学の世界へ」が設けられている。(6年P201~)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「算数の学び方」では、「問題把握」「見通し」「自力解決」「検討・討議」「まとめ」「適用」といった問題解決型の授業の流れが示されている。 (2年P4, 5他)</p> <p>イ 日常の生活場面から課題が導き出されている。(3年P51, 4年P174)</p> <p>ウ 計算のしかたを考える場面では、「立式」→「立式の根拠」→「しかたを考える」→「他者の考えを読み取る」→「一般的な方法にまとめる」という構成になっている。(3年P39~40, 129~130他)</p> <p>エ 多様な解決方法を引き出す課題を設定するとともに、解決方法を比較・検討し、よりよいものに高めたり、一般的にまとめたりする過程が示されている。 (3年P85~86, 4年P75~76, 5年P181~182)</p> <p>オ 単元「面積の求め方を考えよう」では、児童がつまずきやすい内容を取り上げ、単元への導入が図られている。(5年P170)</p>
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「環境」「国際理解」「歴史」など、算数と実生活のさまざまな事象との関連から算数の有用性について理解できる「わくわく算数ミュージアム」が設定されている。(6年P179~200)</p> <p>イ 「食育」「防災」に関連する話題が取り上げられている。(6年P151, 185)</p> <p>ウ 他教科との関連が意識されている。(5年P152~157)</p>
	その他	

算 数	算 数	番号 1 1	略称 学 図	書名 みんなと学ぶ小学校算数
-----	-----	--------	--------	----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 定着を図る練習問題として、各単元末に「力だめし」「練習」が設定されている。(1年P45, 2年上P49他)</p> <p>イ 新たな単元の学習に必要な既習事項の定着を確認するための「学びのじゅんぴ」が各単元の前に設定されている。(2年上P34, 66他)</p> <p>ウ 各学年で学んだ内容の定着と習熟を図るための「○年のまとめ」が全学年に最終単元として設定されている。(1年P133～, 2年下P87～他)</p> <p>エ 定規やコンパス等の使い方や作図の仕方が連続写真で掲載されている。(2年上P82～83, 3年下P22～23)</p> <p>オ 巻末には、学習内容を確認しやすいよう、教科書で学習した用語・記号の一覧と記載ページが設定されている。(3年上P136他)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 第2学年以降、目次の次に「さあ、算数を始めよう！」で教科書の使い方のガイダンスが示されている。(2年上P4～5他)</p> <p>イ 学習の内容・感想をまとめたノート例、わかったことや気づきを伝えるためのレポートの書き方などが示された「ノート名人になろう」「レポート名人になろう」が掲載されている。(3年上P23, 3年下P26～27, 6年P144～145他)</p> <p>ウ 第3学年以降の単元末の練習問題「力だめし」には、自己評価に役立つチェック項目が示されている。また、関連ページも記載されており、必要に応じて学習内容を確認することができる。(3年上P19, 34他)</p> <p>エ 巻末の「力をつける問題」は児童の習熟の程度に応じられるよう、補充問題や発展問題が準備されている。(3年上P121～, 4年上P119～他)</p> <p>オ どのように学びを進めていけばよいのかが側注に示されている。(3年上P21～22, 4年上P43～45他)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「長さ、面積、体積を直接比べること」は1単元で扱われている。(1年P105～)</p> <p>イ 「2位数の加法・減法」は、2単元に分けて扱われている。(2年上P35～, P51～)</p> <p>ウ 「乗法に関して成り立つ性質の学習」と「乗法の筆算」の学習の間に、「2位数×1位数の計算」の方法について考える単元が設定されている。(3年上P9～, 20～, 90～)</p> <p>エ 「わり算」と「あまりのあるわり算」の単元が連続している。(3年上P36～, P50～)</p> <p>オ 「倍の計算」についての単元が設定されている。(3年上58, 59, 4年上P114他)</p> <p>カ 「乗数や除数が整数の場合の小数の乗法・除法」についての単元「計算のしかたを考えよう」が設定されている。(4年下P51～54)</p> <p>キ 「測定値の平均」と「単位量当たりの大きさ」が1つの単元で扱われている。(5年P30～)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元「たしざん(1)」で絵やドット図といった図的表現が扱われている。(1年P36)</p> <p>イ 式、図、言葉といった表現方法の関連が示されている。(2年上P6, 7)</p> <p>ウ 「加法と減法の相互関係」の単元では、逆思考の問題をテープ図に対応させて□を用いて立式することが取り上げられている。(2年下P76)</p> <p>エ 筋道立てて考えるための類推、帰納、演繹の考え方について具体的な説明がなされている。(3年上P6, 7他)</p> <p>オ 単元名の下には、見通しをもって学べるよう単元のねらいが示されている。(3年上P29)</p> <p>カ 単元「時こくと時間」では、計算で時刻を求める方法も扱われている。</p> <p>キ 単元「2けたでわるわり算」では、除法について成り立つ性質と併せて、乗法のみまりについても扱われている。(4年上P110)</p> <p>ク 単元「比例」のなかでも2数直線が扱われている。(5年P204)</p> <p>ケ 4マス関係図が用いられている。(4年下P51, 53 6年P34他)</p> <p>コ 中学校との接続を意識した「中学校へのかけ橋」を別冊としている。(6年)</p>
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 計算のしかたを考える学習では、「問題把握」「見通し」「自力解決」「検討・討議」「まとめ」「適用」といった問題解決型の授業を意識できるようになっている。(3年上P20～22他)</p> <p>イ 日常の生活場面から単元全体の課題を設定している。(3年上P76他)</p> <p>ウ 単元「円と球」では、日常の生活のなかから、円の定義につながる場面を取り上げ、単元への導入が図られている。(3年下P17)</p> <p>エ 単元「しりょうの整理」では、調査項目の設定についても触れている。(4年下P55)</p> <p>オ 単元「図形の面積」では、児童がつまづきやすい内容を取り上げ、単元への導入が図られている。(5年P178)</p>
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 環境問題など今日的な課題や国際理解につながる話題が取り上げられている。(2年上P42, 4年上P8～9, 5年P254～255, 6年P211)</p> <p>イ 「防犯」「防災」に関連する話題が取り上げられている。(3年下P12, 6年P92)</p> <p>ウ 他教科との関連が意識されている。(2年上P8, 23, 4年上P22～23, 6年P95, 168)</p> <p>エ 第1・5・6学年は上下合本となっている。</p>

算 数	算 数	番号 17	略称 教出	書名 小学算数
-----	-----	-------	-------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 巻末の「ステップアップ算数」には、毎時間の学習とリンクしている「きほんの問題」が掲載されている。(2年上P117～, 3年上P124～他)</p> <p>イ 単元末には、その単元の学習内容が整理できるよう「まとめ」「力をのばそう」が設定されている。(2年上P29～30, 42～43他)</p> <p>ウ 定規やコンパス等の使い方や作図の仕方が連続写真で掲載されている。また、作図技能は必要な学年で繰り返し掲載されている。(2年上P52, 3年上P135, 4年下P143)</p> <p>エ ページ下部に「言葉の広場」「よくあるまちがい」が示されている。(2年上P22, 3年上P39, 3年下P34他)</p> <p>オ 単元「わり算の筆算(1)」のなかで、倍の意味について理解を深める内容が扱われている。(4年上P31～32)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 第2学年以降、目次の次に「教科書の使い方」が示されている。(2年上P2他)</p> <p>イ 第2学年以降、「学びの手引き」のなかでノートまとめ方が示されている。(2年上P24～25他)</p> <p>ウ 目的意識をもって学習に臨めるよう課題が子どもの言葉で「はてな」に書かれている。(2年上P17, 21, 3年上P23他)</p> <p>エ 第2学年以降の巻末問題集には「きほんの問題」と「レベルアップ問題」が用意されており、選択して取り組めるようになっている。(2年上P117～, 3年上P124～他)</p> <p>オ 実生活や今後の学習に、学んだことを活用する態度を育てるための「学んだことを使おう」が設定されている。(2年下P39, 3年下P27他)</p> <p>カ 第2・3・4学年の巻末には「教科書に出てきた言葉」、第5・6学年巻末には「さくいん」がまとめられ、学習した言葉や単位について調べられるようになっている。(5年P272, 6年P236)。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 2位数は、単元「いまなんじ」の前単元「なんばんめ」で扱われている。(1年P22)</p> <p>イ 減法では、「求残」と「求差」を分けて単元が構成されている。(1年P53～, 64～)</p> <p>ウ 「長さ、面積、体積を直接比べること」は1単元で扱われている。(1年P119～)</p> <p>エ 除法の学習では、「包含除」→「等分除」の順で単元が構成されている。(3年上P44)</p> <p>オ 「概数」と「概算」を分けて単元が構成されている。(4年上P52～, 92～)</p> <p>カ 比例については、単元「体積」で扱われ、単元の後の「算数ワールド」で比例の表と2数直線を対応させている。(5年P22, 29)</p> <p>キ 計算単元の間に関形単元をはさむなど学習負担を軽減するよう単元が配列されている。(4年「小数と整数のかけ算、わり算」→「立体」→「分数の大きさ」とし算、ひき算」5年「小数のかけ算」→「合同な図形」→「小数のわり算」)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 既習と未習を区別することで課題意識を明確にするためのページを設定している。(1年P96, 108)</p> <p>イ 単元「かたちづくり」では、中学校で学習する「平行移動」「回転移動」「対称移動」につながる「ずらす」「まわす」「うらがえす」という用語が用いられている。(1年P152, 153)</p> <p>ウ 「算数で使いたい考え方」を設け、数学的な考え方について子どもの言葉で整理している。(3年上P6, 5年P6他)</p> <p>エ テープ図、2数直線の見方・かき方についての単元「たし算とひき算の図」「かけ算とわり算の図」が設定され、演算決定のしかたについて示されている。(2年上P72～75, 3年上P120～123)</p> <p>オ わり算の立式の根拠として2数直線が示されている。(4年上P20, 62)</p> <p>カ 単元「グラフや表を使って調べよう」では、棒グラフと折れ線グラフの複合グラフが扱われている。(4年上P49)</p> <p>キ 単元「文字を使った式」では、2桁の整数や偶数・奇数を文字を使って表すことが扱われている。(6年P15)</p> <p>ク 中学校との接続を意識した「数学へのとびら」では、「正負の数」や「平方根」の素地になる問題を扱っている。(6年P188～)</p>
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「算数ワールド」では、「問題把握」「自力解決」「検討・討議」「まとめ・振り返り」「適用・発展」といった問題解決型の授業を意識できるようになっている。(3年上3～)</p> <p>イ 単元への導入として「どんな学習がはじまるかな?」を設けている。(6年P7他)</p> <p>ウ 単元「円と球」の導入では、日常の生活のなかから、円の定義につながる場面を取り上げている。(3年上P106～107)</p> <p>エ 単元「分数」では、分割分数から量分数へと分数の意味理解が深まるような場面が紹介されている。(3年下P31)</p> <p>オ 単元「図形の面積」の導入では、児童がつまずきやすい内容を取り上げている。(5年P182～183)</p> <p>カ 単元のまとめを4コマ漫画で示し、学習内容の振り返りを図っている。(2年上P54, 70他)</p>
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「防災」「国際理解」などに関する話題が取り上げられている。(3年上P42～43, 4年上P98, 6年P199他)</p> <p>イ 環境問題など今日的な課題に関連する話題が取り上げられている。(5年P168～169)</p> <p>ウ 第1・5・6学年は上下合本となっている。</p>

算 数	算 数	番号 6 1	略称 啓林館	書名 わくわく算数
-----	-----	--------	--------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 新しい単元の学習に必要な既習事項を確認するための「準備」が設定されている。(5年P15他)</p> <p>イ 定規やコンパス等の使い方や作図の仕方が分解写真で掲載されている。(2年上P36, 3年上P36, 4年上P66～67)</p> <p>ウ 習熟を図る練習問題として、巻末に「もっと練習」が設定されている。(3年上P122～, 4年上P130～他)</p> <p>エ 「復習」が適宜設定されており、計算問題等以前の学年に遡って取り組めるようになっている。(4年下P36, 87他)</p> <p>オ 第2学年以降の各巻末に要点・用語のまとめが掲載されている。(2年上P144, 3年上P144他)</p> <p>カ 児童の理解を助けるための切り取り教具が工夫されている。</p> <p>キ 裏表紙に算数への興味・関心を高めるような工夫がなされている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 第2学年以降、目次の次に「教科書の使い方」「学習の進め方」が掲載され、教科書の使い方や学習の仕方のガイダンスが示されている。(2年上P2～5他)</p> <p>イ 単元末の「たしかめましょう」において、学習した内容を自己評価できるようになっている。また、第2学年以降、問題の内容を再確認できる「ふりカエル」ページが記載されている。(2年上P41, 56他)</p> <p>ウ 第2学年以降の各巻末に「発見!算数島」が設定されている。また、興味・関心や習熟の程度に応じて学習内容を確認する「学びをいかそう」「もっと学びをいかそう」や「算数の自由研究」では、テーマ設定、まとめ方、発表の仕方が例示されている。(2年上P115～143, 4年上P92～93他)</p> <p>エ 全学年の目次(上下巻の場合は上巻)に「保護者の方へ」があり、学習意欲の向上や学習習慣が確立できるよう家庭との連携を促している。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「0の加法・減法」についての単元が設定されている。(1年P118～119)</p> <p>イ 単元「かずとすうじ」の「5までのかず」において、数の構成的な見方について触れられている。(1年P8～9)</p> <p>ウ 「長さ、面積、体積を直接比べること」は2単元に分けて扱われている。(1年P74～, P156～)</p> <p>エ 「時間の単位(量と測定)」と「簡単な表やグラフ(数量関係)」を合わせて単元が構成されている。(2年上P6～)</p> <p>オ 加法・減法については、同一単元内で扱われている。(2年上P20～, P44～, P94～)</p> <p>カ 「概数」「見積もり」についての単元「買えますか?買えませんか?」(1～3年)「見積もりを使って」(4～6年)が設定されている。(2年上P80～81, 3年上P82～83他)</p> <p>キ 「乗法に関して成り立つ性質」のための単元が設定されている。(3年下P16～, P62～)</p> <p>ク 「四則に関して成り立つ性質」や「式の読み」「逆算」についての単元「式と計算」が設定されている。(5年P62～)</p> <p>ケ 面積については、「三角形」→「平行四辺形」の順に扱われている。(5年P118～)</p> <p>コ 単元「体積」「面積」では、比例についても扱われている。(5年P25, 131)</p> <p>サ 学習内容に関連した文章問題を系統的に扱う「考えを広げよう、深めよう」が設定されている。(3年上P50～51, 5年P68～69他)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 包含除・等分除の素地を養うための単元「おなじかずずつ」が設定されている。(1年P150～151)</p> <p>イ 学習に見通しがもてるよう単元全体を貫く課題が設定されている。(2年上P20他)</p> <p>ウ 「考えを広げよう深めよう」では、数学的な表現や考え方についての説明がなされている。(2年上P58他)</p> <p>エ 単元「調べ方と整理のしかた」では、表を活用する場面が設けられている。(4年下P64～65)</p> <p>オ 「算数資料集」には、わかりやすい説明のしかた、算数でよく使う考え方についての説明がなされている。(6年P272～275)</p> <p>カ 中学校との接続を意識した「中学校で学ぶ『数学』の簡単な紹介」を設けている。(6年P240～242)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「学習の進め方」が示されており、「問題把握」「見通し」「自力解決」「検討・討議」「適用」「振り返り」といった問題解決型の授業を意識できるようになっている。(2年上P4～5他)</p> <p>イ 「わくわく算数学習」では、問題解決型の授業の具体的な進め方について示している。(3年上P46～49, 5年P30～33他)</p> <p>ウ 既習事項と関連付けながら、課題意識や見通しをもって学習に取り組める場が設けられている。(6年P66他)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「環境」や「防災」「社会生活」「国際理解」などに関連した題材を幅広く扱っている。(4年上P52, 4年下P104～105, 6年P186～187)</p> <p>イ キャリア教育の視点から、算数と仕事とのつながりについて理解する「算数から仕事へ」が掲載されている。(5年P3, 6年P3)</p> <p>ウ 第1・5・6学年は上下合本となっている。</p>

算 数	算 数	番号 116	略称 日文	書名 小学算数
-----	-----	--------	-------	---------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 既習事項や定着度を確認できるよう、教科書の巻頭に「これまでに学習したこと」、単元の導入時に「次の学習のために」が設定されている。 (2年上P8, 9, 3年上P8, 9他)</p> <p>イ 単元末の「たしかめポイント」では、学習内容の習熟を図るとともに、関連ページで学習内容の確認ができるよう構成されている。(3年上P21, 53他)</p> <p>ウ 定規やコンパス等の使い方や作図の仕方が連続写真で掲載されている。 (2年上P56～57, 3年上P40～41, 4年上P98～99, 102～103)</p> <p>エ 学習内容の習熟を図れるよう「復習」「まちがいやすい問題」が設定されている。 (4年上P30, 60, 94他)</p> <p>オ 単元「わり算のしかたをくふうしよう」では、倍の計算が扱われている。 (4年上P44, 45)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 第2学年以降、目次の次に「さあ、算数の学習をはじめよう」「算数ノートをつくらう」「教科書の使い方」が掲載され、学習の仕方や教科書の使い方のガイダンスが示されている。(2年上P2～7, 3年上P2～7)</p> <p>イ 第2学年以降の上巻末に、どのように学びを進めていけばよいのかということが分かる「学び方ガイド」が添付されている。</p> <p>ウ 側注に、どのような視点で学びを進めていけばよいのかということが示されている。(3年上P48～49他)</p> <p>エ 「いち・に・算活」や「なるほど算数」、第3学年以降の「活用」では、身の回りの生活と関連づけた学習活動を促す内容が扱われている。 (3年上P52, 106～107他)</p> <p>オ 第2学年以降巻末に「算数マイトライ」が設定され、「選んで学ぼう」「学びを深めよう」「力をつけよう」では、興味・関心や習熟の程度に応じて学習内容を確認したり深めたりすることができる。(2年上P117～152, 3年上P109～144他)</p> <p>カ 第6学年下巻末の「マテマランドの探検」は、児童の興味・関心に応じてコースを選択できるようになっている。(6年下P68～85)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「長さ、面積、体積を直接比べること」は2単元に分けて扱われている。 (1年P84～, P100～)</p> <p>イ 「時間の単位(量と測定)」と「簡単な表やグラフ(数量関係)」を合わせて単元が構成されている。(2年上P10～)</p> <p>ウ 2位数の加法と減法の暗算の単元が設定されている。(3年上P66)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 単元「10までのかず」の「個数を比べること」では、おはじきに置き換えること、1対1対応させることが取り上げられている。(1年P18)</p> <p>イ 単元「あわせていくつ ふえるといくつ」で絵やドット図といった図的表現が取り上げられている。(1年P35, 38)</p> <p>ウ 包含除・等分除の素地を養うための単元「おなじかずずつわけよう」を設けている。(1年P156～)</p> <p>エ 単元「100より大きい数をあらわそう」で、⑩、①といった図的表現が用いられている。(2年上P64)</p> <p>オ テープ図や数直線について系統的に整理した「よみとろう あらわそう」を設けている。(3年上P46, 3年下P46, 4年上P48他)</p> <p>カ 単元「わり算のしかたをくふうしよう」では、立式の根拠となる図や言葉の式が示されている。(4年上P33)</p> <p>キ 単元「変わり方をグラフに表そう」では、棒グラフと折れ線グラフの複合グラフが扱われている。(4年上P71)</p> <p>ク 中学校との接続を意識した「もうすぐ中学生」を設けている。(6年下P96～102)</p>
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「さあ、算数の学習を始めよう」や側注により、「問題把握」「見通し」「自力解決」「検討・討議」「振り返り・まとめ」といった問題解決型の授業を意識できるようになっている。(2年上P2～3, 2年上P21他)</p> <p>イ 単元での学習の課題を明確にするため、身の回りの観察や既習事項の振り返り等の場を設けている。(6年上P10, 48他)</p> <p>ウ 単元「まるい形を調べよう」では、導入で、日常の生活のなかから、円の定義につながる場面が取り上げられている。(3年上P36～37)</p>
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 「なるほど算数」では、伝統・文化の話題や和算などに関する話題が取り上げられている。(5年下P78, 6年上P72)</p> <p>イ 他教科との関連が意識されている。(1年P77, 2年上P76, 4年上P62, 5年下P69～)</p> <p>ウ 「防災」「国際理解」に関する話題が取り上げられている。 (4年上P10～11, 5年下P74～75, 114～115)</p> <p>エ キャラクターのクリンに防災ずきんをかぶらせ、防災的な視点から表やグラフを作成した題材を扱っている。(5年下P74)</p> <p>オ 全学年の教科書が横長のA B判になっており、側注を利用して問題解決的な学習過程を具体的に示す場面を充実している。</p> <p>カ 第1学年のみ上下合本となっている。</p>

# 理科



理 科	理 科	番号 2	略称 東書	書名 新しい理科
-----	-----	------	-------	----------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「観察・実験」の具体的な手順が1、2とわかりやすく表示され、用意する物も明記されている。(6年P151)	イ まとめが簡潔に書いてあり、大切な言葉も太字で強調されている。(3年P114)
	ウ ぐらしやこれまでの学習、他教科の学習を想起させるよう「思い出そう」が設定されている。(6年P147)	エ 理科学習における話し合いの仕方を示している。(3年P150)	オ 人体模型の資料により、からだのつくりを立体的にとらえることができる。(6年巻末)
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「たしかめよう」では、関連ページが「ふり返ろう」として示されており、自ら学べるように工夫されている。(3年P31)	イ 「理科のひろば」に多くのページを使い、生活とのつながりを考えたり、より深く学習したりできるようにしている。(4年P34)
	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 4年生以上では、目次ではなく内容の区分によって単元を示し、前学年で学習した内容とのつながりを明記している。(4年P1)	イ 最終単元の後には、1年間学習したことの要点を載せてふり返りができるようにしている。また、資料として「かく・話す」「観察」「実験」「深める」という点について理科の調べ方をまとめている。(3年P144～156)
内容の構成・配列について	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「問題」「予想しよう」「計画しよう」「実験・観察」「結果」「考えよう」「まとめ」という基本的な流れを大きな文字で示しており、問題解決の過程が常に意識できるようにしている。(6年P34～36, P.148～150)	イ 大きくて大きな文字で問題を書いている。また、必要な部分の写真や図を大きく鮮明に載せており、重要な学習事項を読み取りやすくしている。(3年P18～30)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 3年「チョウを育てよう」では、3分の2の紙面や3分の1の紙面にたまごから成虫までの写真や解説等を載せ、一連の変化をわかりやすく提示している。(3年P22～27)	イ 4年「電気のはたらき」では、導入として電気自動車を大きく取り上げている。生活とのつながりや科学の有用性を意識した学習の導入になっている。(4年P36～37)
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 単元の内容につながる遊び(「かげふみあそび」「かげつなぎ」)等を単元の最初に大きな写真で載せて、生活体験との関連を図っている。(3年P72～73)	イ 「説明しよう」では、アルコールランプを消す等の現象を言葉で説明させることによって、実感につなげている。(6年P16)
		ウ 「学びをつなごう」では、3年からの学習のつながりと中学へのつながりを確認させている。(6年P62, P80)	エ 6年「変わり続ける大地」では災害写真の扱い方についての配慮事項を載せている。(6年P118)

理 科	理 科	番号 4	略称 大日本	書名 たのしい理科
-----	-----	------	--------	-----------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 学習問題と「わかったこと」の整合性が図られている。(4年P18, 22)	イ 学習をすすめるために必要な算数科の学習内容(折れ線グラフの表し方と読み方)について、拡大するなど丁寧な説明がなされている。(4年P20)
	ウ 各学年末には1年間で身に付けた科学的な見方や考え方をふり返るコーナーが設けられるとともに、次学年の学習内容も掲載し、系統性の意識付けを図っている。(6年P184~188)	ア 各単元の巻頭に「よそうしよう」が位置づけられ、自分の予想に基づいた自主的・自発的な実験を促す工夫がなされている。(3年P42)	イ 「作ってみよう」や「りかのたまてばこ」には多くの例示があり、学習内容と生活の関連を重視している。(3年P48~49, P97)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 各単元末には、学んだことを生活場面にあてはめて考える「学んだことを生かそう」が配置されている。(4年P125)	イ 6年生では、内容の区分を超えて、環境をテーマに1年間の学習を進めていくよう紹介がなされるとともに、最初の単元と最終単元との関連が図られている。(6年P6~7, P178~179)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 各学年における「問題解決の方法」がわかりやすく簡潔に示されており、また学習のサイクルを示して学習のつながりを考慮している。(3年P2~3)	イ 「発表しよう」「計画を立てよう」「話し合おう」等、自分の考えを伝え合う場を随所に取り入れている。(5年P61, 76, 134)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 児童自らが学習問題に気付くことができるように全面写真でとりあげたり、事象を比較したりする場面を設定している。(6年P8 4年P84~85)	イ 4年「わたしたちの体と運動」では、教室内で可能な運動を紹介しながら課題を身近なものとし、実感を伴った理解を図っている。(4年P70~71)
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 「りかのたまてばこ」で自然災害やそれに対する防災対策についての資料が豊富に掲載され、自らの行動についても考えるよう促す記述がなされている。(5年P88~91 6年P132~135)	イ 野外観察に活用できる観察シートが巻末に掲載されている。(3年)

理科	理科	番号 11	略称 学図	書名 みんなと学ぶ 小学校理科
----	----	-------	-------	-----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 単元の内容に入る前のページで「学びの流れ」やその学年でつけたい力を示している。(5年P4~5)</p> <p>イ 大事な言葉を欄外に目立つように示して、強調している。(3年P18)</p> <p>ウ まとめが簡潔に書いてあり、大切な言葉も太字で見やすくしている。(3年P61)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「調べ方や使い方」を目次に載せて、自発的な学習ができやすくしている。また、その学年で栽培する植物について示しており、見通しを持って学習できるようにしている。(3年P3)</p> <p>イ 単元の最初のページに大まかではあるが、その単元で行う学習を示している。(5年P90~91)</p> <p>ウ 「読み物」や「作ってみよう」によって、生活とのつながりを強調している。(4年P45~46)</p> <p>エ 巻末の「考えよう調べよう」で、自ら調べる方法や考える方法を示している。(5年P155~169)</p> <p>オ 準備物や手順を詳しく示した「チャレンジ実験」や「やってみよう」のページがあり、自発的な学習を促している。(6年P19, 31)</p> <p>カ 裏表紙にもものさしを示し、様々な場面で活用できるようにしている。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 「今までの学習を思い出してみよう!」で、前学年までに学んだ関連する内容や事象を紹介して、重要事項の想起や関連づけを図っている。(6年P6)</p> <p>イ 3年ゴムの力と風の力の学習を「ゴムのはたらき」と「風のはたらき」の2単元に分けている。他の教科書では、「風とゴムで動かそう」等の1単元になっている。(3年P78~P93)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 学び方の流れをマーク(？、話し合い、予想、観察、実験、結果、考察)で示し、学習の流れを意識させている。観察・実験では準備物を細かく示し、チェックできるようにしている。(6年P153~154)</p> <p>イ 比べながら調べる学習を進めていく上で手がかりとなる写真が掲載されている。(3年P21~22)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 3年「風のはたらき」では、ウインドカーではなく、風車によって持ち上がるおもりの数を比べ、強い風ほどものを持ち上げる力が大きいというまとめをしている。他の教科書はウインドカーの動いた距離で比べている。(3年P86~92)</p> <p>イ 3年「明かりをつけよう」の「!回路がわのようにつながっているのに見えるのに明かりがつかないとき」では、児童の目で見えにくいところを具体的な図でわかりやすく説明している。(3年P97)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 科学に対する興味・関心を高めるために有名な科学者の写真やその伝記、言葉を載せている。(5年表紙, 裏表紙, P. 154)</p> <p>イ 日常とのつながりを意識できるように、詩と見開き2ページにわたる写真を載せている。(5年巻頭)</p> <p>ウ 6年「大地のつくりと変化」では、「ハザードマップ」や「地震や津波の備え」を紹介している。(6年P138, 142)</p>

理 科	理 科	番号 17	略称 教出	書名 未来をひらく 小学理科
-----	-----	-------	-------	----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 前学年の振り返り「〇年で学んだこと」のページが巻頭にあり、前年度の学習内容や語句についておさえられている。(6年P2~3 5年P2~3)</p> <p>イ 各学年に「ノート使い方」のコーナーがあり、具体的にイラストで、「問題ー予想(理由)ー計画(実験方法)ー結果ー結論」という流れでまとめることが分かるようになっていく。(6年P11,14 5年P21,23)</p> <p>ウ 单元ごとの「確かめ」で基本的事項の定着が確認できる。(6年P21,49)</p> <p>エ 单元のはじめに既習事項を確認するコーナーが設けてある。(6年P51)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 「学んだことを使おう」のコーナーで、学習したことをもとに、新たな問題について考えたり、ものづくりをしたりできる。(6年P21,67 3年P59)</p> <p>イ それぞれの学年で学習した内容について、より関心を高められるよう、巻末に「〇〇ミニずかん」という8ページ程度のコーナーを設けている。(4年P200~208)</p>
内容の構成・配列について	③单元構成の工夫(单元の設定・配列の相違等)	<p>ア どの学年も総ページ数が多く、字は大きめである。</p> <p>イ 6年「電流による発熱」が、「電気の利用」とは別に小单元扱いになっている。(6年P140,P160)</p> <p>ウ 3年「日なたと日かげ」「光とかがみ」「かげと太陽」という順番で3单元扱いになっている。(3年P94~123)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 学習内容は全ての单元が、「はてな?」「調べよう」「わかった」を軸として構成されており、それを意識させるように巻頭で「学び方」として説明されていたり、それぞれの言葉がイラストと共に強調して書かれたりしている。(4年P4~5)</p> <p>イ 单元の導入「やってみよう」で、おもちゃを作って遊ぶ等の共通体験を位置づけ、疑問をもとにしながらか課題が設定されるよう工夫されている。(4年P43~44)</p> <p>ウ 各学年の裏表紙に「理科の安全の手引き」が示されている。</p>
	⑤特徴的な单元における課題の構成の工夫	<p>ア 4年「とじこめた水と空気」では、閉じ込めた空気と水に力を加えたときの体積の変化等を比較しながら同時に扱っている。(4年P92~96)</p> <p>イ 5年「発芽と成長」では、水やりの経験をもとに発芽には「水」が必要かどうかを調べてから「水」の他に何が必要かを考えるという流れになっている。(5年P20~24)</p> <p>ウ 6年「人や他の動物の体」では、実物大のイラストを使って、自分の臓器の位置を確認できるようにしている。(6年P42~45)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 6年「地しんや火山と災害」という小单元が7ページにわたって組まれ、津波に関する資料も扱われている。(6年P112~118)</p> <p>イ 单元の最初「学習のつながり」には、関連する他学年の单元名が記されている。5、6年の单元では中学校で学習する单元名も記されており、小・中学校の系統性が分かるようになっていく。(5年P12 6年P6)</p>

理 科	理 科	番号 2 6	略称 信教	書名 楽しい理科
-----	-----	--------	-------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 結果を的確に記録する力の育成を図るために、結果のまとめ方について、見本となる文章表現が提示されている。(5年P120)</p> <p>イ 細やかな作業を必要とする実験について、その過程が拡大提示されている。(3年P117)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 自主的な研究になるよう自由研究のまとめ方について、模造紙への書き方や書く項目等をていねいに説明している。(5年P70～71)</p> <p>イ 身の回りのものを活用したり、身近な教材を使ったりして誰でも観察・実験ができるように配慮されている。(5年P112 6年P43)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 信濃の四季に合わせた構成となっている。また「生き物のくらし」に掲載されている春夏秋冬の写真は、同じ場所で撮影され、比較しながらその変化が理解できるよう工夫されている。(4年P6～[春], P48～[夏], P108～[秋], P144～[冬])</p> <p>イ 各学年の巻頭に「1年間の学習」が配置され、1年間の学習の見通しが持ちやすくなっている。(4年P2～3)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 児童の吹き出しを多く配置して、次の学習活動につなげたり、児童の興味・関心を高めたりしている。(4年P22～23)</p> <p>イ 各学年の巻頭に学習問題等をマークで表示し、見通しをもって問題解決の過程がふめるようになっている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 5年「電流のはたらき」では、「はってん」において鉄以外の他の材質について課題を提示している。(5年P113)</p> <p>イ 共通の体験、あるいはこれまでの体験から学習問題をつくっていくよう写真が提示されている。(4年P32, 130)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 地域の身近な植物や動物の写真が豊富に掲載され、体験活動を促す工夫がされている。(4年P8～11, P110～113)</p> <p>イ 理科で学んだことが生活で生かされている場面について、資料を単元末に掲載している。(3年P109)</p>

理 科	理 科	番号 6 1	略称 啓林館	書名 わくわく理科
-----	-----	--------	--------	-----------

項 目		特 徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	各学年「理科プラス」という別冊がつき、単元の最初と最後に児童自身が予想やまとめを書きこみ、自分の学びの成長がわかるようになってい (全学年 別冊)	
		イ	基本的な実験用具の使い方は、その都度関連するページに記載されていてわかりやすい。理科室を多く利用する学習の前には「みんなでつかう理科室」として、安全面に配慮した理科室の使い方の学習が位置づけられている。 (4年P102～107 6年P78～81)	
		ウ	学習をすすめるために必要な算数科の学習内容について「算数のまど」でていねいに扱っている。 (4年P182～183)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	単元の最初には、見開き2ページにわたりダイナミックな写真が多く使われており、児童の興味・関心を高められるよう工夫されている。 (4年P84～85)	
		イ	「やってみよう」「広げよう」のコーナーを設け児童の理科における興味・関心を高めたり、広げたりしている。 (6年P69, P90)	
		ウ	ものづくりを行うための「作ってみよう」のページがあり、たくさんの例示により、児童が自主的に活動ができるように配慮されている。 (4年P178～181)	
		エ	「理科の広場」が各単元に設けてあり、日常生活と学習内容に関連づけたり、学習を生活に生かしたりできる工夫がなされている。 (6年P154)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア	季節を考えた単元構成が行われている。日光を使う学習は、「3年かげのでき方と太陽の光」以外は1学期に設定してある。また火を使う学習は暑い時期は避けてある。 (4年P34～36, P108～121)	
		イ	同学年で内容を比較させたい学習は、続けて単元が配列されている。 (5年P30～43「メダカのたんじょう」、P44～55「ヒトのたんじょう」)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア	学習の進め方が教科書の最初に提示してあり、児童が問題解決の過程を意識して学習を進めることができるようになってい (6年P6～7)	
イ		全学年とも「課題-実験-結果-考察-次時に向けての話し合い」という一連の学習の流れを、見出しをつけてわかりやすくまとめている。また、偶数ページに結果と考察が書いてあり、ページをめくらないとそれらが見えないよう配慮している。 (6年P17～18)		
ウ		夏休み前には、全学年「科学の目でみてみよう」のコーナーを設置し、よりよい実験やまとめ方が学べるようになっており、科学的にもものを見る力の育成を図っている。 (6年P76～77)		

	<p>⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫</p>	<p>ア 5・6年には地域資料集がついており、児童にとって学習がより身近なものになるように工夫されている。(6年P192～205)</p> <p>イ 児童が自由に遊んだり、実験をしたりする中で不思議を見つけ、課題づくりを行い、その課題を解決していくという学習の流れを組んでいる。(3年P122～141)</p> <p>ウ 各単元の学習のまとめは、手書き風を書いてあり児童が学習のまとめの参考にしやすい。また、「たしかめよう」「力だめし」のコーナーを各単元の終わりに設置し、学習内容の定着を図っている。(6年P19～20)</p> <p>エ 教科書の最後に次学年へのつながりを考慮し、次学年の学習内容が記載されている。(各学年巻末)</p>
<p>その他</p>	<p>⑥今日的な教育課題との関わりなど</p>	<p>ア 5・6年には「未来に広がる日本の技術」のコーナーを設け、日本の科学技術が実社会で役立っている話題を取り上げている。そして、科学立国日本をアピールしている。(6年P112～113)</p> <p>イ 5・6年には「くらしをまもる」というコーナーを設け、児童の防災・減災の意識を高められるようにしている。(6年P140～143)</p>

生 活



生活	生活	番号 2	略称 東書	書名 新編 新しい 生活
----	----	------	-------	--------------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 活動の約束や調べ方などについて右縦に写真・挿絵を提示している。(上P13、31、37、53、75、93下P25、37、49、71等)	イ 「すたあとぶっく」で、入学当初の学校生活における集団でのかわり方、学習の仕方、挨拶、机の中の整頓の仕方など、生活上必要なことを写真で具体的に示している。(上口絵)
	ウ 「べんりてちょう」は、大きな絵や写真や説明があり、学習技能の習得につながる。(上P111~117、下P103~113)	エ 安全・衛生面へ配慮し、野外活動や動植物に触れる活動後「てあらい・うがいマーク」で意識づけている。(上P9、19、29、53、67、下P3、11、37、59、89等)	
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 自分で調べる習慣化のために「ポケットずかん」は、切り離して持ち運びできるようにしている。(上巻末)	イ 具体的な活動の流れやねらい、児童の気付きの例を小単元名や文や吹き出しやキャラクターなどで示している。(上P10、12~15、29 下6、88等)
	ウ 興味を持たせるように、身近にある自然の不思議さへの気付きをクイズにしている。(上P33、45等)	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 「すたあとぶっく」はスタートカリキュラムで就学前教育とのなめらかな接続になるよう、保護者への説明の言葉も入れている。(上口絵)
内容の構成・配列について	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ウ 中学年以降の社会科・理科・総合的な学習の時間につながるような学習活動を設けている。(下P28、29、47、56、77等)	ア 「いきものとなかよし」は、体験活動での気付きの表現方法として動作化やペープサートなど1年生の発達段階に応じた例を示している。(上P55)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	イ 電子黒板、メール、FAX など、ICT を活用した活動場面を紹介し、コミュニケーションツールとして取り入れることができるようにしている。(下P76、85、111等)	ウ 他教科との関連を図りながら、体験活動したことを、絵や文、会話、動作など、多様な表現方法で例示している。(上P16、31、50、70、84、104、下P16、17、28、40、52、76、80、84、97、99等)
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 異年齢交流、障がいのある友達、お年寄りなど、さまざまな人々とかわる活動を挿絵で示している。	イ 子ども110番、避難場所、津波避難ビルなど、安全教育・防災教育に関連した看板などを多く取り上げている。(上P21、22、95、下P8、31、68等)
		ウ 案内板の点字、多機能トイレ、点字ブロック、マタニティマークなど町の中にあるユニバーサルデザインを取り上げ、住みよい町づくりの工夫について取り上げている。(下P68、上P95)	

生 活	生 活	番号 4	略称 大日本	書名 新版 たのしい せいかつ
-----	-----	------	--------	-----------------

項 目		特 徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	言語活動の基礎となる学習規律について「はなしかためいじん」「ききかためいじん」として右端に示している。(上P17)	
		イ	語彙力・表現力を高め、言語文化への理解を促すためのコラム「せいかつことば」を右端に示している。(上P25、41、63、71、73、105、下P7、25、45等)	
		ウ	校外活動では安全に気を付けて活動できるようやくそくを示している。(下P59)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	単元末に「がくしゅうどうぐばこ」を設け、資料や図鑑として使えるよう工夫している。(単元終末・上下巻末)	
		イ	資料や「こうするといいよ」といった活動のヒントがページ右端に帯で工夫されている。(上P93、95、97、101、103、107、109、下P13、23、37、43、59、63等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア	入学を意識して上の巻頭は、無理なく学校生活を始められるよう絵本のイメージで表現されている(上P2～5)	
		イ	右上の木の色に活動目標を示し、活動の見通しを持てるようにしている。	
		ウ	上巻は2年生からもらった学校マップや朝顔のたねの写真から始まり、下巻は、1年生の活動振り返りで始まるというように、2学年間の単元のつながりを工夫している。(上P8、9下P6、7)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア	「絵地図を作ろう」では、床地図の表現の仕方を取り入れ、3年社会科につながる工夫をしている。(下P74、75)	
		イ	折込ページや透明シート、見開きを縦方向に見る写真、白黒表現などにより、活動イメージをふくらませるための工夫をしている。(上P50、52、68)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	「わたしの町はっけん」では、単元末に「広がれ町のたから」として地域に発信するためHPやポスターなど紹介し、多様な活動のヒントになるように工夫している。(下P66～73)	
		イ	「はっけんかんどう夏休み」では、1日24時間を意識して計画的に過ごし、夜働く人にも気づくことができるよう透明シートがついている。(下P44～49)	
		ウ	「ありがとうをとどけよう」では、ありがとうの花カードを書くことで周囲の人々への感謝の気持ちを高めることができるよう工夫している。(下P104～107)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア	祭りなど地域の伝統行事や年中行事などの写真や挿絵を多く提示している。(上P49、93、103、下P3等)	
		イ	「あきとなかよし」「もうすぐ2年生」では、園児とふれ合う写真を使い、交流活動を意識できるようにしている。(上P78、79、112、113)	
		ウ	世界のあいさつや町のユニバーサルデザイン、手話について写真や絵で紹介している。(下巻末)	

生 活	生 活	番号 1 1	略称 学図	書名 みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ
-----	-----	--------	-------	-------------------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「学び方図かん」の中に、話し方、聞き方、発表の仕方調べ方、探し方などが具体的に示されている。 (上P116～123 下P112～123) イ イラストの吹き出しの言葉が、児童の思考を深めるヒントとなっている。 ウ 教科書が大判で見やすくなっている。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「学び方図かん」「生きものずかん」では、できたことや見つけた生き物などを自分で印を付けて振り返り、自己評価できるようになっている。 (上P116～130、下P112～123) イ 「ものしりノート」のコーナーに、自然物を使った遊びやおもちゃの作り方、公共物の使い方など活動をさらに広げる例や、ワークシートやお礼の手紙の書き方など国語科との合科的な扱いに対応した多様な表現活動例が紹介されている。(上P36、47、54、58、72、73、79、83、95、下P12、18、27、42、90、92、106等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 目次は、5つの単元による季節ごとの構成がひと目でわかるように工夫されている。(上下目次) イ 「ものしりノート」のコーナーがあり、その中で観察カードの書き方が大きく具体的に説明してあり、国語科と合科的に扱われている。(上P36～P37 下P42～P43)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「がっこうたんけん」「あそびにいこうよ」など単元の中で活動が連続したストーリーを持ち、見通しと目的意識を持って取り組むことができるように、構成されている。(上P14～27、48～83等) イ 「チャレンジずかん」で単元の活動をさらに広げる例を紹介している。(上P91、下P28、94)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「がっこうたんけん」と「町のすてきはっ見」では、人に視点を当てて調べたりインタビューしたりして、学校や町の人とのかかわりを大事にした構成になっている。 (上P22～25 下P20～25) イ 単元が終わった後、巻末の「きみならどうする」にページがジャンプするようになっており、単元で学習したことを生かして、どのように解決したらよいかを考えながら生活に生かせる構成にしている。	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 「安全のページ」というのがあり、交通安全のこと、防犯、防災のことについて書かれている。 (上P8、9、131 下P125) イ 生活科学習への理解と協力を得るために、保護者に向けたメッセージと各単元のねらいを説明している。 (上下裏表紙) エ 環境や福祉に配慮した町づくりの工夫を探す活動が発展的な学習として紹介されている。(下P28、29)	

生活	生活	番号17	略称 教出	書名 せいかつ
----	----	------	-------	---------

項目		特徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	「ぐんぐんポケット」は、言葉や道具の使い方、話し合いや発表の仕方などについて具体的に説明してある。項目ごとに色と番号をマークでわかりやすく示している。(上P109～118、下P93～112)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア イ ウ エ	ページ右縦の「はっ見ヒント」コーナーで、観察の視点や方法のヒントが示されている。(上P17、27、35、41、93、下P25、39、41、79等) 単元末に「ふりかえる」があり、単元の学習活動を振り返るとともに自己評価し、「おうちでチャレンジ」でさらに家庭生活の実践に広げていくようにしている。(上P23、55、77、87、下P45、65、81等) 「せいかつかノート」は1年間のカレンダーになっており、季節を意識しながら1枚のシートに単元ごとの振り返りが記入できるようになっている。(上下巻末) ワークシートの記入例が大きくて見やすく、教師のコメントも示している。(上P35、41、53等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア イ ウ	上巻の初めはスタートカリキュラムを意識した導入ページとなっている。(上P2～13) 町たんけんの単元は、春と秋の2回行うような配列になっており、繰り返しかかわる中で気付きが深まるような構成になっている。(下P16、50等) 他教科との関連を大事にしており、そのページの上に、どの教科と関連するのか、児童にも分かるようにマークで示している。(上P64、73、77、下P41、45、55等)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア イ ウ	言語活動を通して学びが広がったり深まったりするように、各単元で伝え合う活動が位置付けられている。動植物を育てる単元では、種や生きものの気持ちを考え身体表現する例を紹介している。(上P44、45、65等) 「わくわくどきどきしょうがっこう」では、友だちと仲良くなるための活動例や言葉などが写真やイラストで紹介している。(上P8～13) 「はってん」コーナーでは、中学年以降の理科や社会につながる科学的な見方や方角の表し方などについてのクイズを出題している。(下P9、33、43等)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア イ	「えがおのひみつたんけんたい」では、単元の最後にあこがれの仕事として、様々な仕事をしている人達を紹介し、キャリア教育を意識した構成になっている。(下P56、57、66、67) 幼児を招いての発表活動や学校案内など、幼児と一緒に活動する例を紹介している。(上P26、75、106等)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア イ ウ	イラストに外国の児童、車いすに乗った児童が登場し、共生社会を意識している。 防災、防犯についてのマークや町づくりについて紹介している。 「おぼえてあんぜん」(上P116、117、下P108、109) 「安全パトロール、わんわんパトロール、こども110番」(上P25 下P30) 「地球となかよし」「手洗い・うがい」などの環境や衛生に配慮したイラストやマークが学習活動の中で意識されるよう紹介している。(上P29、55、63等)	

生活	生活	番号26	略称 信教	書名 せいかつ
----	----	------	-------	---------

項目		特徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	低学年用のマス目に見つけた言葉を書くワークシートや日記、作文、手紙などを紹介し、国語科との関連を図りながら指導できるようにしている。 (上P79、89、下P29、39、46、61、66、89、95)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア イ	家庭生活から始まり、家庭生活で終わる単元の流れになっているので、学んだことを生活に生かしやすい。 縦書きで表記され、低学年の発達段階に配慮している。	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア イ	2学年間を通じた小動物の飼育活動や花や野菜の栽培活動を通して、家族や地域の人との交流を多く設定し、豊かな道徳性を育む構成にしている。 図工科・音楽科など他教科との関連した活動がわかるよう、実際の児童の作品や写真が紹介されている。 (上P 25、33、47、下P26、28、29、67、70等)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア イ ウ	信濃地域の豊かな自然や日常的な生活事象を教材にして単元が構成されている。 直接体験を重視し、「いつものばしょ」「いつものさんぽみち」など身近な同じ場所で四季の変化に気づくような単元を設定している。 (上P18、19、50、51、76、78、86、88、下P11等) 文章を読み進めることで、ストーリー性をもった活動展開が期待できるような内容となっている。	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア イ ウ	「すすめすいすい号」は、友だちと協力して船を作り上げ、ダイナミックな活動が展開できるよう例が示されている。(下P50～53) 「はるがいっぱい」では、つくしの料理、「二年生の春」では、よもぎだんごの料理の写真を紹介し、味覚でも春を感じる活動例や年中行事と季節の食べ物を意識できるよう写真の紹介をしている。 (上P24、90、下P7、13、14、56等) 伝統行事や節句にかかわる単元は、地域作家による切り絵が使われている。(上P72、92、下P78、80等)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア	「人にやさしい町」では、障がいがある人や乳幼児に配慮しただれもが暮らしやすい町にするための工夫が示されている。 (下P69)	

生活	生活	番号38	略称 光村	書名 せいかつ
----	----	------	-------	---------

項目		特徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「！」で衛生面、安全面で気をつけることをわかりやすく示している。 イ 確かな力を身に付けることができるよう学習活動を「ホップ」で導入、「ステップ」で実践、「ジャンプ」で伝え合いという3段階で構成している。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア すべての単元に「どうすれば、いいかな」のコーナーを設け、活動の視点を広げる手がかりとするとともに「？」で、自分なりに考える楽しさを実感できるようにしている。 (上P18、34、47、81、91、102、下P18、34、53、68等) イ 「もっとやってみたい」で発展的に学習を続けたい児童の学習の手がかりを提示している。 (上P42、43、下P44、45)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 上下巻末に「きせつのおくりもの」が設定され、上巻では草花や生き物、下巻では同じ町の風景が春夏秋冬で連続して掲載され、四季の変化を比較する手がかりになっている。 イ 上巻冒頭では、入学したばかりの児童が安心して小学校教育のスタートが切れるように、歌に合わせて友だちや先生となかよしになるなど、スタートカリキュラムを意識している。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「♪」でオリジナルソングを紹介し、音楽科との関連や多様な表現活動の手がかりとなっている。 (上P4、86、107、下P4、95) イ 野菜や虫などの実物大の写真が多く、吹き出しには活動のヒントとなる言葉が書かれている。 ウ 「大すきいっぱいわたしのまち」の床地図や「あそんでためしてくふうして」のうごくおもちゃは中学年以降の社会科や理科へのつながりが意識された内容になっている。(下P24、25、73)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 「みんなのこにこだいさくせん」は、「にこにこ」をキーワードとして単元が展開され、自分とのかかわりの中で家族のつながりを深めたり、家庭生活における自分の役割を意識したりするとともに、自分のよさに気付く単元になっている。(上P84～95) イ 「あそんでためしてくふうして」は、身の回りにあるキャップや空き容器などを利用してくり返し遊び、試行錯誤しながら、工夫して遊びや動くおもちゃを作ることができる単元になっている。(下P62～81)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 環境に配慮してリサイクルや分別など、資源の活用を意識づけている。(下P79) イ 誰もが暮らしやすい町づくりを意識できるように「大すきいっぱいわたしのまち」の中のイラストや写真に、車椅子に乗った人や外国の人、子どもや障がいのある人を守るための施設や設備、避難場所の看板などが取り上げられている。(下P12～27)	

生 活	生 活	番号 6 1	略称 啓林館	書名 わくわくいきいき せいかつ
-----	-----	--------	--------	------------------

項 目		特 徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	「わくわくずかん」の中で、聞き方、話し方、伝え方などの例を示し、国語科との関連を意識している。 (上P117～121)	
		イ	活動の後の片付け、リサイクルの方法など、基本的な生活習慣や生活技能を、身に付けるための方法を紹介している。(下P124、125)	
		ウ	活動中の留意点について「あぶない」「こんなときどうしよう」で、イラストとともにわかりやすく提示している。(上P33、45、47、85、下P43、53、57等)	
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	「わくわくいきいきせいかつたんけんブック」が別冊としてあり、児童が探検に行くときや、調べ学習をするときなど、資料として活用できるようになっている。	
		イ	「わくわくずかん」「いきいきずかん」で巻末にまとめて資料を提示している。(上P116、下P101)	
		ウ	「できるかな」で振り返りを記入し、自己評価ができるよう設定している。(上P9、59、75、下P77等)	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア	気付きを確かなものにするために、単元を「わくわく」で導入、「いきいき」で活動、「つたえあおう」で伝え合い「ちゃれんじ」で発展という4段階の構成にしている。	
		イ	上巻冒頭にスタートカリキュラムを設定し、幼児教育とのつながりを意識している。(上P2～11等)	
		ウ	「町たんけん」を春、夏、秋、冬とくりかえし設定し、季節ごとに変化する町の様子にも、気づくことができる単元構成になっている。(下P20、62、78)	
		エ	単元末に「ちゃれんじ」として発展的な活動のヒントを示し、家族とのふれあいや幼児との交流活動へ広げる構成にしている。 (上P24、25、37、67、91、下17、31、45、85等)	
		④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア	体験活動だけでなく、多様な表現活動をイメージできるように実際の作品や挿絵・写真で紹介している。 (上P38、67、78、下P30、68、71、82、92等)
	イ	「きせつのとびら」で季節に気付く手がかりとなる写真を提示している。(上P56、92、下P46、74等)		
	ウ	伝え合う活動での場の設定を挿絵で示し、環境構成の手がかりとなるようにしている。 (上P22、48、78、90、下P44、60、84、88等)		
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	家族や地域の人との交流、小動植物とふれ合う活動、伝え合う活動の後には「ありがとう」を表すページを設け道徳との関連を図りながら、他者とのかわりの中で感謝や思いやりの心を育むことができるようにしている。 (上P26、27、68、69、下P18、96等)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア	上下巻ともに裏表紙に「保護者の方へ」が書かれ、保護者への理解と協力を求めている。	
		イ	通学路での安全や、地震のときの避難の仕方などを紹介している。(上P133)	

生活	生活	番号 1 1 6	略称 日文	書名 わたしとせいかつ
----	----	----------	-------	-------------

項 目		特 徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア	巻末「なんでもずかん」の中で、話す・聞く、調べ方・まとめ方など基本的な学習技能についての資料を紹介している。 (上 P134、135、136、137、下 P128、129)	
		イ	安全やルールを守って活動できるよう、「きをつけよう」「さんぽのやくそく」「やくそく」などで、留意点がわかりやすく示されている。(上 P69、103、下 P11)	
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア	調べ学習や学習のまとめに活用できるように「なんでもずかん」を巻末に提示している。	
		イ	活動する内容を単元タイトルの下にわかりやすく提示している。	
		ウ	目的に応じ、観点の手がかりとなるようないろいろな種類のカード例を提示している。(上 P41、73、下 P55、80 等)	
	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア	幼児教育との接続を意識した、充実したスタートカリキュラムを提示している。	
		イ	「あそびのたつじんあつまれ」(下巻)は、1年生と保育園児との交流(上巻)と、時期がリンクする単元構成になっている。	
		ウ	同じ公園の季節ごとの絵や写真を提示し、比べたり、たとえばりすることで、気付きが生まれるように単元を構成している。 (上 P59、67、77、91 等)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア	右端の部位(側欄、めくり)に、ワンポイントアドバイスや活動を家庭に広げるなど、手がかりの提示をしている。(下 P9 等)	
		イ	気付きの質を高めるために、協働的な活動・思考ツールとしての付箋紙の活用法などを紹介している。 (上 P62、63、下 P14 等)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア	必然性のある伝え合い活動・交流活動を位置づけるために、自ら話したくなり、聞きたくなる活動を夏休み前後に小単元として工夫している。 (上 P72、73、下 P68～73 等)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア	防災・安全のための基本として、地域の人とのコミュニケーションを大切にするための資料を紹介している。 (上 P122、123、下 P122、123)	
		イ	誰もが暮らしやすい町づくりの工夫や点字を資料として紹介している。(下 P118、119、132)	
		ウ	季節ごとの各地の伝統行事や暮らしの様子を写真で紹介している。(上 P126～133)	



# 音 樂

音 楽	音 楽	番号 1 7	略称 教出	書名 小学音楽 音楽のおくりもの
-----	-----	--------	-------	------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 学習のねらいや活動のポイントが明記され、学習活動を支援する既習事項の振り返りや関連資料への案内が、ページ番号で示されている。</p> <p>イ 各題材に関連する新出事項や共通事項がページ右上にわかりやすく示されている。(全学年の主に奇数ページ)</p> <p>ウ リコーダーと鍵盤ハーモニカの構え方や指使いが、写真やイラストで大きく示されるとともに、楽譜と関連づけて音名表示もしてあることで、読譜も含めた理解が進むように工夫してある。 (1年P36, 37 3年P18, 19)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 児童一人一人が思いや意図を持って自分なりに音楽を感じ取ることができるように、音楽を形づくっている要素が動作化による表現例としてイラストで例示されている。(3年P33 4年P48)</p> <p>イ 自分の学びを確認したり他と学びを共有したりすることができるようなワークシートが随所に設けてある。 (3年P9 4年P49 5年P45, 51)</p> <p>ウ 見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるように、音楽づくりでは具体的な手順、ヒント、作品例が示されている。 (1年P54 2年P28, 39, 52 3年P54 4年P47, 52 5年P40, 50 6年P34, 46)</p> <p>エ 想像豊かに音楽を聴いたり味わったりできるように、写真を多用したページが下学年では片開きで、上学年では両開きで設定してある。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 主に基礎基本を重視した題材と活用を重視した題材が設定され、児童の実態に応じた題材の組み合わせが可能になっている。 (各学年目次)</p> <p>イ 1つの題材で楽曲数がしぼりこまれ、共通事項を軸に題材同士をつないだ発展的な学習を展開できるように構成されている。</p> <p>ウ 音楽ランドには各学年10曲以上の多様な楽曲が取り上げてあり、児童の発達段階や学習の実現状況に応じて、課題と関連させて学習できるように工夫してある。(各学年巻末)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 旋律の特徴を切り口とした内容やワークシートで鑑賞の題材が構成され、音楽を形づくっている要素のかかわりによって生み出される楽曲のよさやおもしろさについての味わいが深まるよう工夫されている。 (3年P49 4年P49 5年P45 6年P26)</p> <p>イ 各学年の学習に関連した構成音から旋律をつくるスタイルがどの学年にも設定されている。(1年P55 4年P38 5年P33)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「もっとあそぼう」のコーナーが随所に設定され、音楽づくりの題材にとどまらず、継続的に創造的な活動を展開していくことができるような構成になっている。(1年P43, 47 4年P43 5年P29 6年P15)</p> <p>イ 鑑賞のワークシートが大きく設けられ、学習に見通しをもったり振り返ったりすることができるように工夫されている。 (3年P49 4年P49 5年P45 6年P26)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 異文化理解、国際平和、郷土愛などに資する音楽のもつ力や豊かさについて、著名な音楽家のメッセージが掲載されている。 (上学年巻頭)</p> <p>イ 思考力・判断力・表現力の育成の観点から、音楽を表すいろいろな言葉が例示してある。(2年～6年巻末片開きページ)</p> <p>ウ 「手話や足踏みをしながらうたおう」のページがイラストと説明入りで掲載されている。(全学年巻末)</p>

音 楽	音 楽	番号 2 7	略称 教芸	書名 小学生の音楽
-----	-----	--------	-------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 各題材で示された学習内容が、各学年の基礎基本の事項としてふり返りのページに同じ楽譜や写真・イラストでまとめてあり、各題材とふり返りの両方にページが示されている。(各学年巻末)</p> <p>イ 新出事項は、「新しく覚えること」として、詳しい説明とともに大きく表示されている。</p> <p>ウ 音や音楽の特徴が、楽譜や楽器とともに大きく図やイラストで示され、説明だけでは伝わりにくいニュアンスもわかりやすく示されている。(1年P29 3年P18, 32, 44 5年P25, 44, 45)</p> <p>エ 楽器の特徴や演奏するにあたってのポイントについての具体的な説明や図示があり、音名と記譜と運指を連動して理解できるように工夫してある。(1年P30, 31 3年P17, 18, 19, 22, 23)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 主体的に学習を進めることができるように、学習の内容や活動の順序が「〇〇しましょう。」の文章で具体的に示されている。</p> <p>イ 新しく覚えたことを自分で確認できるように、新出事項や学習内容の表示のすぐ横に記入用ワークが設けられている。(2年P30 5年P17)</p> <p>ウ 学習のつまづきを自分で解決できるように、活動の手がかりが具体的に例示されている。(4年P22 5年P15)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 学習内容や到達目標が明確に示されるとともに、それぞれの題材は表現と鑑賞の関連を図った構成となっている。(各学年目次 3年P22~29 6年P14~21)</p> <p>イ 題材は歌唱、器楽、創作、鑑賞の各分野の組み合わせで構成され、児童の実態や状況に応じて多様な指導と評価の計画をアレンジすることができるようになっている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 各学年とも7~8題材で構成され、学年をつないだ系統的な学習が積み上がっていくように工夫されている。(各学年目次)</p> <p>イ 旋律づくりにおいて使用する音の制限が、3音、5音、音階、和音と学年が上がるごとに広がっていくように構成され、学習の深まりに配慮した構成になっている。(3年P48, 49 4年P48, 49)</p> <p>ウ 「2人で向かい合って」「3人の組になって」「友達と組になり」「2つのパートに分かれて」など、他と関わって学びを深めていくような構成が学年や学習内容に応じて工夫されている。(2年P10 4年P17 5年P13)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 低・中学年では、拍や拍のながれについて取り扱った学習の展開が多く設定され、音楽の基本を意識した課題の構成が貫かれている。(1年P40 2年P57 3年P42 4年P17, 37)</p> <p>イ 旋律の繰り返しや違いについて色分けして示してあり、音楽の構成が生み出す楽曲の特徴を生かした表現について創意工夫できるような課題構成になっている。(1年P19 3年P32 6年P35)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 道徳教育の観点から、国内外の音楽の歴史をつくった偉人についての紹介がある。(中・高学年巻末)また、道徳の内容に即した楽曲が取り上げてある。(3年P6 5年P8)</p> <p>イ 我が国や郷土の伝統音楽に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度を養う観点から、祭りや楽器についての表示等が多い。(各学年裏表紙 各学年巻末鑑賞資料)</p>

# 图画工作

図画工作	図画工作	番号 9	略称 開隆堂	書名 小学図画工作
------	------	------	--------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 「工具箱」を巻末に設け、材料や用具の正しい使い方を詳しく紹介している。</p> <p>イ 「パレットコーナー」で描画材料や用具の使い方、色彩などの知識について学年に応じて示している。</p> <p>ウ 各題材の記載においても、材料や用具の説明をしている。</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 目次のページには主な用具・材料を示している。</p> <p>イ 「ひらめきコーナー」を設け、紙を素材にして切ったり折ったりする表現活動を紹介している。</p> <p>ウ 題材ごとに学習目標に応じて、必ず振り返りを設け、学びの確認や交流ができるようにしている。（かえるマーク）</p> <p>エ 用具の使い方・技法について関連するページがわかるようにしている。（指さしマーク）</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫（単元の設定・配列の相違等）	<p>ア 5・6年の上下巻には折り込みページを使った3ページ展開の題材を設けている。</p> <p>イ 地域や学校の実情、児童の実態に応じて、題材を選択することができるようにしている。（目次ページ）</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫（学び方や考え方の展開の相違等）	<p>ア 裏表紙や「造形コレクション」では、他者や社会、伝統、自然や環境などとのつながりを紹介している。</p> <p>イ 手や体全体の感覚を働かせながら表現や鑑賞ができるような題材を工夫している。</p> <p>ウ 表紙に各学年のテーマが大きく示され、いろいろな材料で表現することで、造形意欲を高める工夫をしている。</p> <p>エ 図画工作科で大切にしたいことがマークで示され、「めあて」とともに題材名の上に記載している。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 「ゆめをかたちに」を目次の次のページに設け、造形作家の思いをメッセージに込め、児童に夢をもつ大切さと、造形を通した未来への希望を伝えている。</p> <p>イ 短時間で造形要素を学ぶ「形と色でショートチャレンジ」を系統づけて各学年に設定している。領域にとらわれない発展的な活動も紹介している。</p> <p>ウ 低学年の工作、造形遊び、絵の題材の中には、「かんじょう」の枠を設け、指導要領に即した鑑賞の指導ができるものようにしている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 豊かな情操を養うために「小さな美術館」や「みんなのギャラリー」により、芸術作品や伝統工芸品などを紹介し、鑑賞の場を設けている。</p> <p>イ 各学年で1作品、海外の児童作品を紹介している。</p> <p>ウ 安全な社会や防災の観点を造形的にとらえた活動や作品を紹介している。（1・2上 P40, 3・4上 P41, 3・4下 P41, 5・6下裏表紙）</p> <p>エ 平和への願いを込めた児童の作品を紹介している。（5・6上 P37, P42）</p> <p>オ デジタルカメラやタブレット型のコンピュータなどの ICT 機器の活用において、学校の設備状況などを考慮しながら取り上げている。</p>

図画工作	図画工作	番号 1 1 6	略称 日文	書名 小学図画工作
------	------	----------	-------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「使ってみよう材料と用具」を各巻6ページ設け、材料や用具の正しい使い方を詳しく紹介している。 イ 製作手順や気をつけること、かたづける内容を統一したデザインで表記し、さらに写真やイラストを使うことで、直感的にわかりやすい紙面となっている。
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 児童による制作上の思いやヒントとなる言葉が吹き出しで示されているなど、文章表記が多くあり、言語活動の充実が図られている。(キャラクター「チーロさん」が児童の活動のヒントを紹介) イ 学習のめあてが、4観点で必ず表記してあり、題材ごとにページの決まった場所に載っていることで、準備から取組まで自主的な態度形成への配慮もあり、表現も児童の視点で表記している。 ウ 各題材ページにおいて必要な用具が、ページ左下にアイコンで示され、名称は巻末にまとめて示している。 エ 題材名は、活動内容がイメージしやすく、児童の興味・関心が高まるような工夫をしている。
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 学年に応じて、参考作品の制作の思いや工夫が文章でしっかり書かれていることで、それぞれの表現の多様さを感じる工夫をしている。 イ 中学校の美術科や技術科との関連を配慮したページを配し、造形教育としてのつながりを意識することができるようにしている。(5・6下P48,49)
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「図画工作の広がり(中高学年)」や「ぞうけいのもり」では、他者や社会、伝統、自然や環境などとのつながりを感じさせる紹介をしている。 イ サムネイルを利用した目次により、児童が活動を想起しやすいようにしてあり、教科書全体を通して、児童の活動が見える写真を多く取り入れている。 ウ 表紙に低中高学年のテーマを分かりやすい言葉で示している。
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 版に表す活動をはじめとして、各分野の系統を意識し、発達に合わせて無理なく取り組めるようにしている。 イ 「使ってみよう材料と用具」では、発達段階に応じて、材料や用具の扱いを詳しく解説している。
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 道徳の内容項目と関連が深いと考えるページには、右下に道徳のマークを設けている。 イ 各学年で1作品、海外の児童作品を紹介している。 ウ 安全な社会や防災の観点を造形的にとらえた活動や作品を紹介している。(3・4下P4, 5・6下P28, P44, P51) エ 色や形を国際理解、伝統文化、福祉や健康と関連して紹介し、活動を通して人と人とのつながりを考えることができるよう工夫している。 オ 電子黒板を活用したプレゼンテーションの様子やデジタルカメラを活用した主体的な鑑賞活動など、ICT機器の活用について紹介している。

# 家庭

家庭	家庭	番号 2	略称 東書	書名 新編 新しい家庭
----	----	------	-------	-------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	<p>ア 実習で習得すべき基礎的な技能が「これだけはできるようになろう」で示されている。(P15、41、87)</p> <p>イ 小題材ごとにめあてと「ふりかえり」が明確に提示されている。</p> <p>ウ 題材で身に付けるべき基礎的・基本的な知識や技能が「いつも確かめよう」にまとめられている。左利きの場合の実物大写真も大きく掲載され、個々の実態に配慮されている。(P115、117、119、121)</p> <p>エ 難易度の高い技能は複数のやり方が掲載されている。(P118～119)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 個に応じて自主的な実践ができるよう、長期休業前に「自由研究」が設定され、問題解決的な実践の手順や活動例、まとめ方が具体的に掲載されている。(P25、51、81、101)</p> <p>イ 題材の課題を見つけたり家庭での実践の具体的な計画を書いたりすることができる記述欄が豊富に設けられている。(P35、44～45)</p> <p>ウ 必要な時にいつでも基礎・基本を自主的に確認できるよう「いつも確かめよう」の拡大版の写真が巻末に掲載されている。(P114～124)</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 調理や製作の題材が既習事項との関連を図りながら基礎的・基本的な内容から応用・発展的な内容へと段階的に設定されている。(P66、82、92)</p> <p>イ 2年間の学習を通じた自分の成長を自覚することができるような題材の配列になっており、巻頭の折り込みに設けられた「成長の記録」で自己評価を記録するよう工夫されている。(P3)</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 最終題材は2年間の総まとめとして地域の一員としての自覚を高めるよう工夫されており、中学校への発展的なつながりが配慮されている。(P108～113)</p> <p>イ 全ての題材が巻頭のガイダンスページに示された流れに沿って構成され、実践的な態度を育てることができるよう工夫されている。</p> <p>ウ 小題材ごとにめあてと「ふりかえり」が明確に提示され、自分の成長を確かめることができるよう工夫されている。</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 消費生活の内容は実生活や調理の題材と関連させながら、同じ品目を比較して考えるなど、より実践的に学習できるよう工夫されている。(P40～41、96～97)</p> <p>イ 住まい方の題材は関連資料が豊富に掲載され、イラストを用いて説明する学習など言語活動の充実を図るよう工夫されている。(P77、107)</p> <p>ウ 一人一人が学習課題を明確にもつことができるよう、生活上の課題を見つける学習を丁寧に扱っている。</p> <p>エ これまで家族や近隣の人々に支えられてきたことに気付くことができるようイラストや記述が工夫されている。(ガイダンスページ、P6、62、108)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 食育の観点から、日本の伝統や文化について考えたり調べたりすることができる資料が掲載されている。(P34、100)</p> <p>イ キャリア教育の観点から、「プロに聞く」に学習内容と職業のつながりを考えることができる働く人の言葉が掲載されている。(P42)</p> <p>ウ 人権教育の観点から、家庭生活や地域社会をえがく上で、高齢者、障がい者、他国の人や男女共同参画の視点を意識したイラストが掲載されている。(P4、108)</p> <p>エ 防災教育の観点から、災害に備えるための具体的な手立てや学習内容との関連を掲載している。また、東日本大震災における小学生の人々を励ます「ファイト新聞」の取組を掲載している。(P109)</p> <p>オ 「持続可能な社会の構築」の観点から、巻末の見開きに社会を形成する一員としての自覚を促し、具体的な行動について考えることができる資料を掲載している。</p>



家庭	家庭	番号 9	略称 開隆堂	書名 小学校 わたしたちの家庭
----	----	------	--------	-----------------

項目		特徴
学習方法の工夫について	①基礎・基本の 確実な定着を 図るための 工夫	<p>ア 実習で習得すべき基礎的な技能が「できたかな」で示されている。(P13、27、37)</p> <p>イ 題材のめあてと振り返りが明確に示されている。</p> <p>ウ 題材で押さえるべき用語の意味が様々な形で確認できるよう工夫されている。</p> <p>エ 難易度の高い技能は個に応じた複数のやり方が掲載されている。(P19)</p> <p>オ 安全に関する事項が「安全マーク」や○×の記号で視覚的に示されたり、箇条書きでわかりよくまとめられたりしている。(P13、34)</p> <p>カ 調理や製作等実習の具体的手順とポイントが子どもの目線で撮影された写真を使ってスモールステップで段階的に示されている。左利き用の写真も掲載され、個々の実態に配慮してある。(P63)</p>
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	<p>ア 実践への意欲が高まるよう、発展的な内容や家庭での実践例が「チャレンジコーナー」や「参考」に豊富に掲載されている。(P23、33)</p> <p>イ 一人一人の考えを引き出すよう、課題に応じて自分の考えを書き込めるよう記述欄が設けられている。(P53、75)</p> <p>ウ 調理と製作の実習のポイントを確認できるよう巻末に簡潔にまとめられている。(P111～112)</p> <p>エ 主体的な学びを引き出すよう「調べよう」「話し合おう」「やってみよう」「考えよう」等の具体的な活動例が適切に配置されている。</p> <p>オ 巻末には索引があり子どもがいつでも自分で調べることができる。</p>
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	<p>ア 2学年にわたってスモールステップで学習を積み上げていくことができるよう、基礎的・基本的な内容から応用・発展的な内容へと展開されている。</p> <p>イ 衣服と住まい方にかかわる題材を2学年間で段階的に設定し対比・応用させて学習することができる。(P56、78)</p> <p>ウ 2年間を貫く視点として自分の成長に気付き、これからの自分の成長を展望できる題材を学年途中や学年末に適切に設定している。(P30～32、64、109)</p> <p>エ ページ横の色分けによる見出しによって、各題材における内容の関連をとらえることができるよう工夫されている。</p>
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	<p>ア 5学年は題材を細かく設定し基礎・基本を大切に配列に、6学年は応用的な題材を意識した配列になっている。(P30、62)</p> <p>イ 最終題材は2年間の総まとめとして、家族や地域の一人として実践したことや中学校での学びの展望を具体的に考えられるよう記述欄が設けられている。(P104)</p>
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	<p>ア 消費生活と環境の内容について、日常生活に直結した具体例をもとに自分でできることを具体的に考え、生活に生かすことができるよう工夫されている。(P52～55)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	<p>ア 食育の観点から、日本や地域の文化や食材について考えたり調べたりすることができる資料を掲載している。(P51 鳥取県の事例P49)</p> <p>イ 人権教育の観点から、家庭生活や地域社会をえがく上で、高齢者、障がい者、他国の人や男女共同参画の視点を意識した写真やイラストが掲載されている。(P6～7、104)</p> <p>ウ 防災教育の観点から、学習内容との関連やポイントを防災マークで掲載している。(P3、108)</p>

保 健

保 健	保 健	番号 2	略称 東書	書名 新編 新しい保健
-----	-----	------	-------	-------------

項 目		特 徴		
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「学習課題」「学習の仕方」「学習したことをもとに考える内容」等が明示され、学習の流れと活動内容が一目でわかる。	イ 各章末に学習を振り返るページがあり、自己評価や実践化へとつなげている。(学習をふり返ろう)	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 自己チェック欄を設け、課題を自分と関連づけて考えさせる工夫がある。(3,4年P8,12)	イ 学習内容に関連する機関のURLが記載され、自発的、発展的学習ができるようになっている。(3,4年P12 5,6年P9等)	ウ 帯の色塗り作業を通して、入学してからの身長伸びを視覚的に実感できるようにしている。(3,4年P17)
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 3年「けんこうな生活」では、すべての時間のテーマに「けんこう」という言葉を使い、一貫して健康を意識づけている。		
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 「学習の仕方」が示されており、見通しをもって学習できる。	イ 「保健の内容の体系化」に対応し、他教科と関連させることで系統性のある内容となっている。(3,4年P10:理科,P17:算数科 5,6年P23:社会科,P37:理科)	ウ 各章の最初の学習で、章全体に関わる学習の視点を提示している。 例 「けんこうによい生活をしたり、けんこうのためにかんきょうをととのえたりすることがひつようです。」(3,4年P5)
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 4年「育ちゆく体とわたし」では、成長の過程、個人差についての図や写真が充実している。 ・生後1ヶ月目の赤ちゃんのくつ、手形、6人の身長比較、3期の成長写真 等 (3,4年P16~20)	イ 6年「病気の予防」の「喫煙」「飲酒」「薬物乱用」では、身近なことから学習がスタートする構成になっている。(5,6年P40~45)	ウ 5年「けがの防止」では、けがの手当について、けがごとではなく、手当の方法ごとにまとめている。(5,6年P25)
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 「防災・安全」について課題解決的に学習する「自然災害によるけがの防止」が設定されている。(5,6年P22,23)	イ 「心の健康」では「自殺予防」「いじめ問題」を取り上げ、課題解決に導く内容になっている。(5,6年P8,9)	ウ 言語活動の充実の観点から随所に記述欄があり、自分の考えを文章で表現しながら、学習を深められるようになっている。

保 健	保 健	番号 4	略称 大日本	書名 新版 たのしい保健
-----	-----	------	--------	--------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 1単位時間の学習内容を、見開き2ページにまとめている。 イ 課題解決のための思考を促す投げかけを、子どものキャラクターの言葉で行っている。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 導入ページに「保健ゲーム」があり、児童の興味関心を高め、学習課題へとつなげるつくりになっている。 イ シールの活用で学習意欲を高め、学習を効果的に展開できる工夫がある。(3,4年P18,26,27) ウ 汚れやすいところを書き込む活動を通して、体を清潔に保つ意欲を高めるようにしている。(3,4年P11) エ 単元の終わりに、学習し理解したことを児童自らの生活の中で実践するために書き込み形式の「活用」を設けている。	
内容の構成・配列について	③単元構成の工夫(単元の設定・配列の相違等)	ア 発展的な資料として、「もっと知りたい」コーナーを設定し、「ミニ知識」からリンクできるようにしている。 イ 目次に各章に関連する写真を入れ、学習の進め方を図で示し、学習内容をイメージしやすくしている。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫(学び方や考え方の展開の相違等)	ア 4年「育ちゆく体とわたし」で、成長に個人差のあることや、自分の心と体にこれから起こる変化を、肯定的に受け止められるよう配慮している。 イ 発展的学習としてインターネット検索のキーワードを表記している。(5,6年P31,34,35,41)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 学校での保健活動に関わる専門職を紹介し、職業を意識させ、勤労を重んじる態度を養っている。(3,4年P15) イ 不安や悩みへの対処法として「軽くする」という視点でまとめている。(5,6年P9) ウ たばこやアルコールを勧められたときの断り方を「よ」「き」「て」「り」というキーワードでまとめている。(5,6年P41,43)	
その他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 発展として「受けつがれていく命」「大切な命絆(きずな)」を設定し、「生命尊重」に係る道徳内容と関連を図っている。 (3,4年,5,6年頁末)	

保 健	保 健	番号 2 0 7	略称 文教社	書名 わたしたちの保健
-----	-----	----------	--------	-------------

項 目		特 徴	
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 重要語句や重要箇所を太字や色囲みにしている。 イ 手の汚れを自覚させるため、脱脂綿による拭き取りと寒天地培養とで汚れ具合を示すとともに、手洗いの手順を写真で掲載し詳しく説明している。 (3,4年P8,9) ウ 「体のよりよい発育」(3,4年P22)、「心のはたらき」(5,6年P3)など、図を用いて関係をわかりやすく示している。 エ 2人の子どもキャラクターの会話形式で学習が進み、学習に親しみが持て、自分の課題として、考えることができる。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 各単元のまとめとして、「これからの自分へ」という記入欄が設定され、実践への意欲付けを図っている。(3,4年P11,25 5,6年11,23,45) イ アスリートからのメッセージを掲載し、夢や目標を達成するために、心と体の健康が大切であることを理解させている。(5,6年P38,45) ウ つながっている生命をイラストで提示し、自分の体の変化に対して健全な関心が持てるよう配慮してある。(3,4年P12,13)	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 5年「心の健康アドバイス」では、友達のいいところを見つけ合い、発表し合う体験的な学習を取り入れている。(5,6年P10,11) イ 各単元の動機付け(課題を見つける)のページには、各学年に応じて作業や資料を提示し、見通しを持って学習に取り組める配慮がある。	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 書き込み欄が多く、言語活動を意識した構成となっている。 イ 4年「育ちゆく体とわたし」では、親の体験談を載せ、児童の内面に配慮した内容となっている。 (3,4年P19) ウ 5年「地域での安全」では、着衣泳を取り上げ、実践を促している。(5,6年P20) エ 学んできたことを手がかりにして、様々な状況にどう対処していくか問題解決を図る工夫がある。 (5,6年P38,40,42) (こんなときあなたなら3,4年P21 5,6年P5,20)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア エイズウイルスに関する正しい理解をイラストや文章を通じて促している。(5,6年P31) イ 鳥取県内の写真が掲載されている。(5,6年P31) ウ 熱中症について、身近に起こる病気として詳しく説明している。(5,6年P23)	
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 郷土料理を取り上げ、食の大切さとともに郷土と文化の大切さについて考えさせる工夫がある。 (3,4年P23)	

保 健	保 健	番号 208	略称 光文	書名 新版 小学保健
-----	-----	--------	-------	------------

項 目		特 徴	
学 習 方 法 の 工 夫 に つ い て	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 本文中の重要な内容が太字や赤字で示され、強調されている。 イ イラストや図表などの資料が多用され、視覚による理解を図っている。 ウ 知識・理解事項を「つかむ」として位置づけ、習得すべき学習内容を明確化している。	
	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 生活時間表を作成し自分の生活を振り返る工夫がある。(3,4年P8) イ キャラクターが学習活動の手助けをしている。 ・児童キャラクター：児童目線からのサポート ・養護教諭、学校医キャラクター：専門的な助言 ウ 学んだことをもとにして考えるコーナー「活用」を設定している。	
内 容 の 構 成 ・ 配 列 に つ い て	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 「食」の大切さを重視し、各学年の他教科の学習内容と関連させている。 (3,4年P9,26 5,6年P5,39) イ 保健学習のスタートとなる3年生の学習内容が、「健康であること」を強く意識させる導入になっている。(3,4年P見開き～3)	
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 4年「育ちゆく体とわたし」で、男女の違いがよく分かるよう例示や解説が充実している。 ・成長過程と写真(3,4年P16,17) ・「体重もふえてとうぜん」「身長と体重のバランス」などの表記(3,4年P19) ・横から撮った写真(3,4年P20) 等 イ 5年「けがの防止」では、けがの原因を「人の行動」「まわりの環境」「心や体の状態」の3つの視点で捉えている。(5,6年P14) ウ 6年「病気の予防」では、うつらないための予防だけでなく、うつさない配慮も必要であることも紹介している。(5,6年P34)	
	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア ストレスについて解説し、ストレスをすべて否定するのではなく、「適度なストレス」が心身の成長に必要なものであることを、理解させる工夫がある。(5,6年P11) イ 地震や津波から身を守るための内容を「けがの防止」単元の発展として4ページにわたり取り上げている。(5,6年P26～29) ウ 緊急地震速報など、災害への対応が示され、自主的に身を守るができるようにするとともに、家族で点検するコーナーを設定している。 (5,6年P27,29) エ 感染症について「うつり方」で分類している。 (5,6年P36,37)	
そ の 他	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 「薬物乱用」では、MDMAの写真を掲載している。 (5,6年P46) イ 犯罪被害を防ぐ内容を、4ページにわたり扱うとともに、「インターネットの正しい使い方」について扱っている。(5,6年P23)	

保 健	保 健	番号 2 2 4	略称 学研	書名 新・みんなの保健
-----	-----	----------	-------	-------------

項 目		特 徴	
学習方法の工夫について	①基礎・基本の確実な定着を図るための工夫	ア 「かがくの目」のコーナーで、レントゲン写真や実験結果など、見えないものを視覚化した科学的な資料を掲載している。 (3,4年P14, 21 5,6年P31, 32)	イ 重要語句を太字で強調している。
	ウ 単元の最初のページが写真資料で統一してあり、資料としての活用もできるようになっている。	エ 学習内容ごとに、「ここで学ぶこと」が明記されている。	オ 各章末に学習のまとめを入れている。
内容の構成・配列について	②自主的・自発的な学習を促すための工夫や、個に応じた学習の工夫	ア 「もっと知りたい・調べたい」コーナーに多くのページを充てている。本文との関連性も深く、現代的な課題、話題を取り上げ、興味・関心に応える内容であり、豊富な資料も掲載している。	
	③単元構成の工夫 (単元の設定・配列の相違等)	ア 5年「けがの防止」では、けが全般の発生原因を学習し、その後「交通事故の防止」「学校や地域でのけがの防止」という順に学習する配列になっている。	イ 健康、安全についての基礎的、基本的な知識の実践的な理解と、その活用、探究に重点が置かれ、活用のコーナーが充実している。
	④各学年の学習内容の構成の工夫 (学び方や考え方の展開の相違等)	ア 4年「育ちゆく体とわたしたち」では「身長伸び」を紙テープで表し、貼り付ける作業を通して成長を実感できるようにしている。(3,4年P20)	イ 6年「喫煙」「飲酒」「薬物乱用」の害については、心身に与える害を学習で学び、習得した知識を活用し、自らが考え、判断する力を身につけさせる工夫がある。(5,6年P43, 45, 47)
その他	⑤特徴的な単元における課題の構成の工夫	ア 5年「こころの健康」では、スクールカウンセラーを主体にしたページを設定し、相談を促すとともに、体験談も載せ、様々な児童に対応できるようにしている。(5,6年P12, 13)	イ 医学や保健の分野での、日本人の世界的な活躍を取り上げている。(5,6年P41)
	⑥今日的な教育課題との関わりなど	ア 3年「1日の生活のしかた」の「もっと知りたい・調べたい」コーナーに、便と健康や体温のリズムと健康について触れている。(3,4年P8)	エ 6年「病原体と病気」の「もっと知りたい・調べたい」コーナーに、抵抗力の具体例を示している。 (5,6年P34)
		ア パソコン、タブレットなどの使用について保健の視点から、健康安全に配慮した内容を取り上げている。(3,4年P14 5,6年P23, 40)	

平成31年度に使用する中学校教科用図書を選定に必要な資料

平成30年度作成

# 特別の教科 道徳

鳥取県教科用図書選定審議会



特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 2	略称 (東書)	書名 新しい道徳
----------	----------	---------	---------	----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 道徳の授業のイメージを持たせるため、各学年の巻頭にオリエンテーションページが設けられている。(各学年 P4~6)</p> <p>イ 各教材の始めに、教材を通してどのようなことについて考えるのか示されている。</p> <p>ウ 各教材の終わりに「考えてみよう」が示されており、発問例が複数例示されている。</p>
内容の構成・配列 について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 各学年、いじめと生命尊重は、複数教材を組み合わせたユニット構成となっている。(各学年目次)</p> <p>イ いじめ問題を学年の早い時期に、情報モラルを夏休み前後に配置する等、行事や季節、生徒の生活実態に合わせた配列となっている。 (各学年目次)</p> <p>ウ 生命尊重については、3年で生命倫理を学習する等、発達段階に応じて系統的に学べるようになっている。</p> <p>エ 各学年、年間30教材と5補助教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めにくための工夫	<p>ア 心情の変化を可視化する心情円や意見交流を行うことができるホワイトボード用紙が巻末に付属している。</p> <p>イ 各教材の終わりに、価値理解につながる発問例が例示されている。</p> <p>ウ 他者の意見を書く欄が設けられている教材が複数ある。 (1年 P26,65、2年 P65,142、3年 P150,166)</p> <p>エ 「p4c」という対話を通して他者と問いを共有し、様々な視点から考えを深めていく活動が紹介されている。(1年 P102)</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 1つの事象について、複数の立場で具体的に考えたり、意見交換したりする教材が設定されている。 (1年 P96~102、2年 P116~121、3年 144~151)</p> <p>イ 役割演技や体験的な学習を主体としたグループエンカウンターが各学年に2箇所設定されている。 (1年 P46,94、2年 P64,92、3年 P88,132)</p> <p>ウ 話し合いのときに参考とするため、各学年の巻頭に「話し合いの手引き」が掲載されている。(各学年 P3)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 各学年の巻末に、生徒が自らの学びを振り返り、書くシート「自分の学びをふり返ろう」が用意されている。 (1年 177~181、2・3年 P185~189)</p> <p>イ 各教材に感じたことや考えたことを自由に書き込める「つぶやき」記入欄が設けられている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。(目次、各教材)</p> <p>イ オリエンテーションページや巻末の「自分の学びをふり返ろう」に4段階の自己評価欄が設けられている。</p> <p>ウ 実際の事例を漫画で表した教材が設定されている。 (1年 P30~34、2年 P26~29、3年 P24~27)</p> <p>エ LGBTについて注釈で記述された部分がある。(2年 P109)</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 11	略称 (学図)	書名 輝け未来 中学校道徳
----------	----------	----------	---------	---------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 道徳の授業のイメージを持たせるため、各学年の巻頭にオリエンテーションページが設けられている。(各学年 P2,3)</p> <p>イ 各教材の始めに内容項目と教材を通してどのようなことについて考えるのか示されている。</p> <p>ウ 各教材の終わりに「学びに向かうために」が示されており、発問例が複数例示されている。</p>
内容の構成・配列 について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 年間の3つの区切りごとに、内容項目が偏りなく配置されている。(各学年目次)</p> <p>イ いじめの問題について、いじめを許さない直接教材といじめを起こさない間接教材が用意されている。 (1年 P92,214、2年 P44,172、3年 P100,150)</p> <p>ウ 各学年の冒頭に良好な学級集団構築を狙ったグループワークが紹介されている。(各学年 P4,5)</p> <p>エ 各学年、年間35教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 内容項目ごとに「心の扉」が設けられ、価値理解のための視点が示されている。(1年 P43、2年 P37、3年 P65)</p> <p>イ 各教材の終わりの「学びに向かうために」に、価値理解につながる発問例や流れが例示されている。</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に示されているオリエンテーションページに、考え議論するためのポイントが示されている。(各学年 P2,3)</p> <p>イ 各教材の終わりの「学びに向かうために」で、意見交換を行う問いが例示されている。</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 「心の扉」に、チェックリストを使って自分を振り返るページが設けられている。(1年 P25、2年 P11、3年 P11,59)</p> <p>イ 各学年に、年間を3つに区切って、学習したことや友達の意見等を書き込んでおき、振り返るため、「学びの記録」が設けられている。 (1年 P80 等各学年3箇所)</p> <p>ウ 学習した内容項目について、実践につなげていくことを促す「心の扉」ページが設けられている。(1年 P73、2年 P119、3年 P113)</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 学習指導要領の4つの視点や身の安全や情報モラル等、現代的課題についてマークで示されている。(目次、各教材)</p> <p>イ 学校での学びが家庭とも共有できるよう各学年の巻末に「保護者の方へ」が設けられている。(1・3年 P223、2年 P227)</p> <p>ウ 実際の事例を漫画で表した教材が設定されている。 (1年 P20~24、2年 P26~30、3年 P100~107)</p> <p>エ LGBTについて学習する教材が設けられている。(2年 P172)</p> <p>オ 各学年の巻末に「学びの記録」をもとにした「一年間の振り返り」が設けられている。</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 17	略称 (教出)	書名 中学道徳 とびだそう未来へ
----------	----------	----------	---------	------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 1年間の学習を見通せるよう、各学年の巻頭にオリエンテーションページが設けられている。(各学年 P2,3)</p> <p>イ 各教材の始めに、教材を通してどのようなことについて考えるのか意識付けする問いが示されている。</p> <p>ウ 各教材の終わりに「学びの道しるべ」が示されており、発問例が複数例示されている。</p>
内容の構成・配列 について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア いじめを直接扱った教材を各学年複数設けている。 (1年 P38,96、2年 P26,94、3年 P34,72)</p> <p>イ 3年間を通したシリーズ教材が2種類設けられている。 (けやき中、3人組)</p> <p>ウ 教材に関連付けて体験的な活動教材「やってみよう」が設けられている。(1年 P27,77、2年 P9,59、3年 P95)</p> <p>エ 各学年、年間30教材と5補助教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 「やってみよう」で、人間理解、他者理解につなげるため、話し合いが設けられている。(1年 P27、2年 P9)</p> <p>イ 各教材の終わりに「学びの道しるべ」が示されており、価値理解につながる発問例が例示されている。</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 各学年に「やってみよう」が設けられており、役割演技が取り入れられている。(1年 P77、2年 P59、3年 P95)</p> <p>イ 各教材の終わりに示されている「学びの道しるべ」に、意見を出し合ったり、話し合ったりすることや自分の考えを様々な視点でまとめたたりすることを促す問いが例示されている。</p> <p>ウ 1年生の巻頭に、いろいろな視点で考えたり、友達と考えを出し合ったりするなどして学習することが示されている。(1年 P4,5)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 人の生き方から学ぶために、人物に関わる教材が多く取り上げられている。(各学年10教材)</p> <p>イ 各学年に、学習したことや友達の見解等を書き込んでおき、振り返るため、「道徳の学びを記録しよう」が設けられている。 (1年 P190、2・3年 P174)</p> <p>ウ 各学年の巻末に「どんな自分になりたいか」を書くページが設けられている。</p> <p>エ 各学年の巻末に都道府県にゆかりのある人物とその言葉を集めたページがある。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 学習指導要領の4つの視点が色分けされている。(目次、各教材)</p> <p>イ 巻末の「道徳の学びを記録しよう」に内容項目ごとに発見があったものを3段階で記入する自己評価欄が設けられている。 (1年 P191、2・3年 P175)</p> <p>ウ 1年生の1～10の教材は、少し文字が大きくしてある。</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 38	略称 (光村)	書名 中学道徳 きみがいちばんひかるとき
----------	----------	----------	---------	-------------------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	ア 各学年の巻頭に、道徳の時間の学び方について説明するオリエンテーションページが設けられている。(各学年 P4,5) イ 各教材の始めには、内容項目が示されている。 ウ 各教材の終わりに「学びのテーマ」ページが設けられており、発問例が複数例示されている。 エ 各学年の巻末に「どうして道徳を学ぶんだろう」が設けられている。 (1・2年 P218、3年 P226)
内容の構成・配列 について	②学習内容の構成・配列の工夫	ア 生命の尊さを学習する教材が、各学年3つずつ設けられている。 (1年 P22,66,92、2年 P25,70,198、3年 P24,138,188) イ 1年間を4つのシーズンに分け、それぞれテーマを設けて教材が配置されている。(各学年目次) ウ 各学年、年間34教材と2補助教材が掲載されている。
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	ア 各学年に、テーマを設けて、「〇〇」ってなんだろうを考えるページが設けられている。 (1年 P128「正義」、2年 P114「ゆるす」、3年 P130「自立」) イ 「節度、節制」の項目を扱った教材の終わりに、タイムスケジュールやチェック表を基に話し合う機会が設定されている。 (1年 P16、2年 P15) ウ 各学年に、話し合いを通して考えを深められる教材が設けられている。(1年 P202～204、2年 P59～61、3年 P188～193)
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	ア 各教材の終わりにある「学びのテーマ」で、様々な視点で考えるよう「考える観点」とは別に「見方を変えて」で問いが示されている。 イ 各教材に自分の気づいたことを記述する「私の気づき」欄が設けられている。 ウ 各教材に示されている「つなげよう」で、同じ内容項目や他教科で学習する内容との関連や関連図書が紹介されている。
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	ア 各学年の巻末に、シーズンごとに、生徒が自らの学びを振り返り、書くシート「学びの記録」が用意されている。 イ 3年生の巻末に、自分の将来を想像して現時点の人生目標を記入する「人生目標年表を書こう」が設けられている。(3年 P224) ウ 各学年の巻末に著名人からの直筆メッセージを掲載した「あなたへのメッセージ」が設けられている。(1・2年 P222,223、3年 P230,231)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	ア 学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。(各教材) イ 「いじめ問題」「情報モラル」「共生」「社会参画」「環境」「国際理解」「人と人との関係づくり」について、直前の教材と関連付けられるコラムが設けられている。(各学年目次) ウ 各学年に漫画教材が設定されている。 (1年 P174～178、2年 P180～185、3年 P52～57) エ 中学校以上配当の常用漢字については、全てふりがな付きになっている。

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 116	略称 (日文)	書名 中学道徳 あすを生きる
----------	----------	-----------	---------	----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	<p>ア 各学年の巻頭に、道徳の時間の学び方について説明するオリエンテーションページが設けられている。(各学年 P2,3)</p> <p>イ 各教材の始めに、教材を通してどのようなことについて考えるのか示されている。</p> <p>ウ 教材の終わりに「考えてみよう」「自分に+1」が示されており、発問例が複数例示されている。</p>
内容の構成・配列 について	②学習内容の構成・配列の工夫	<p>ア 各学年、本冊と別冊「道徳ノート」で構成されている。道徳ノートには本冊と対応する形で、問いと記述欄が設けられている。</p> <p>イ 各学年、いじめは、複数教材を組み合わせたユニット配置となっている。</p> <p>ウ 1年生は、いじめを扱うユニット教材が特に3箇所設けられている。(1年目次)</p> <p>エ 各学年、年間35教材が掲載されている。</p>
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	<p>ア 道徳ノートでは、各教材に他者の意見を書く欄が設けられている。</p> <p>イ 各教材に議論することを想定した発問例「考えてみよう」が示されている。</p> <p>ウ 各教材に「自分に+1」という価値理解につながる発問例が示されている。</p>
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	<p>ア 各学年、6、7教材において、問題解決的な学習や体験的な学習の進め方の参考例が示されている。 (1年 P26,60 等、2年 P39,82 等、3年 P20,46 等)</p> <p>イ 「プラットホーム」の中で、学習した内容について、別の視点から考えるコラムが設けられている。(2年 P40,120、3年 P48)</p> <p>ウ 道徳ノートの巻末に、話し合いの内容をメモしたり、まとめたりする欄が設けられている。</p> <p>エ いじめに関する学習で、同じ登場人物、同じ場面において別の立場から描いた教材が設定されている。(2年 P32、P36)</p>
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	<p>ア 人の生き方から学ぶために、人物に関わる教材が多く取り上げられている。(各学年 8~12 教材)</p> <p>イ 著名人から生徒一人ひとりに向けたメッセージ「私の生き方」が設けられている。(1年 P10,81 等、2年 P29,111 等、3年 P15,19 等)</p> <p>ウ 道徳ノートの巻末に、生徒の振り返りと保護者記入欄のページが設けられている。</p>
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	<p>ア 学習指導要領の4つの視点がマークで示されている。(各教材)</p> <p>イ 安全や情報モラル等、現代的課題について目次で分かるように示されている。</p> <p>ウ 各教材の始めに登場人物や作者が写真等で紹介されている。</p> <p>エ 道徳ノートにおいて、教材ごとにその学習における5段階の自己評価記入欄が設けてある。</p> <p>オ 中学校で学習する漢字については、全てふりがな付きになっている。</p> <p>カ LGBTについてコラムが設けられている。(3年 P145)</p>

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 224	略称 (学研)	書名 中学生の道徳 明日への扉
----------	----------	-----------	---------	-----------------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	ア 各学年の巻頭にオリエンテーションページが設けられ、道徳授業の流れが示されている。(各学年 P2,3) イ 生徒が自ら学ぶための工夫として、各教材の始めに内容項目等が示されていない。 ウ 各教材の終わりに発問例が例示されている。
	②学習内容の構成・配列の工夫	ア 生命の尊さを学習する教材が、各学年3つずつ設けられている。 (1年 P16,96,168、2年 P64,92,162、3年 P26,104,146) イ 各学年の「クローズアッププラス」の中に、アンガーマネジメント、自己肯定感、メンタルトレーニング等を扱ったページが設けられている。(1年 P111,141,151、2年 P53,83,91、3年 P39,53,159) ウ 「地球と地域の未来のために」と「スポーツの世界で共に輝く」という2つのテーマで、複数教材を連続で扱うユニット教材が各学年に設定されている。(各学年目次) エ 各学年、年間35教材が掲載されている。
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	ア 特設ページ「深めよう」に、話し合いを通して気づいたことを記述する欄が設けられている。(1年 P27,37 等各学年4箇所) イ インタビューや意見等1つの価値項目に対して複数の意見があらかじめ教材に掲載されている。(1年 P20,91、2年 P66、3年 P15)
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	ア 話し合いや役割演技を通して考えを深める特設ページ「深めよう」が各学年に4箇所設定されている。(1年 P27,37 等各学年4箇所) イ 学習内容に関連した情報を提供する「クローズアップ」「クローズアッププラス」が設けられている。(1年 P15,19 等) ウ 各学年の巻頭に示されているオリエンテーションページに、話し合っ、考えを磨き合うためのポイントが示されている。(各学年 P2,3)
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	ア 人の生き方から学ぶために、人物に関わる教材が多く取り上げられている。(各学年8~15教材) イ 各学年、自分を見つめて記述するページ「マイプロフィール」が設けられている。(各学年 P9) ウ 各学年の巻末に、1年を振り返って記述するページが設けられている。 エ 様々な名言を集めた「心に響く言葉」ページが設けられている。 (1年 P49、2年 P19,77、3年 P111)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	ア 学習指導要領の4つの視点が色分けされている。(目次、各教材) イ 情報モラルを扱う教材が分かるようマークが表示されている。 (目次、該当の教材) ウ A4版の教科書で、写真や挿絵等が大きく掲載されている。 エ 中学校配当の漢字及び常用漢字外の漢字については、全てふりがな付きになっている。

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 232	略称 (廣あかつき)	書名 中学生の道徳
----------	----------	-----------	------------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	ア 道徳授業のイメージを持たせるため、各学年の巻頭にオリエンテーションページが設けられている。(各学年 P2,3) イ 生徒が自ら学ぶための工夫として、各教材の始めに内容項目等が示されていない。 ウ 各教材の終わりに学習の手がかりが示され、めあてや複数の発問例が例示されている。
内容の構成・配列 について	②学習内容の構成・配列の工夫	ア 各学年、本冊と別冊「道徳ノート」で構成されている。道徳ノートは内容項目ごとに記述欄が設けられている。 イ 道徳ノートには、内容項目ごとに解説した文章が掲載されている。 ウ 3年間を通した「アイツ」シリーズ教材が設定されている。 エ 段組を使用した長文の教材が設定されている。 オ 各学年、年間35教材が掲載されている。
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	ア 教材で学んだ内容項目について理解を深めるよう「thinking」が各学年3つずつ設けられている。(各学年目次) イ 学習内容項目に関する名言が各教材1つずつ掲載されている。 ウ 道徳ノートに、内容項目ごとに自分の考えや気づいたことなどを記述する欄が設けられている。
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	ア 各教材に「考える・話し合う」を示し、話し合うことを意識させるようにしている。 イ 複数の視点からの意見を基に考える教材が設けられている。 (1年 P106、3年 P124)
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	ア 道徳ノートに、自分を見つめて記述するページ、「中学〇年生の私」が設けられている。 イ 道徳ノート巻末には、後で振り返ることができるよう心に残っている授業や話し合いの記録、学習の記録を記述するページが設けられている。(別冊 P52～60) ウ 道徳ノートには、内容項目ごとに問いが掲載されている。
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	ア 道徳ノートの巻末に「自分自身を振り返って」があり、授業ごと、内容項目ごとに5段階の自己評価欄が設けられている。 イ 情報モラルに関連した特集ページが各学年の巻末に設けられている。 (1年 P174～175、2年 P158～159、3年 P154～155) ウ 第1学年については、本文文字サイズが大きめに設定されている。

特別の教科 道徳	特別の教科 道徳	発行者番号 233	略称 (日科)	書名 道徳 中学校
----------	----------	-----------	---------	-----------

項 目		特 徴
学習方法の工夫 について	①自主的・自発的な学習を促すための工夫	ア 各学年の巻頭にオリエンテーションページが設けられ、道徳授業の流れが示されている。(各学年 P4,5) イ 生徒が自ら学ぶための工夫として、各教材の始めに内容項目等が示されていない。 ウ 教材の終わりに発問例が複数例示されている。
内容の構成・配列 について	②学習内容の構成・配列の工夫	ア 教材が内容項目順に配列されている。 イ 3年間を通した「リョウとマキ」シリーズ教材が設定されている。 ウ 各学年、年間37教材が掲載されている。
道徳の目標に関連する工夫について	③価値理解・人間理解・他者理解を深めていくための工夫	ア 各教材に「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」が示され、話し合うことを意識した発問例が示されている。 イ 各学年に、考えを深めたり、話し合ったりするページ「考えてみよう」「話してみよう」が設けられている。 (1年 P72、2年 P21、3年 P22,125) ウ 各教材の終わりに価値理解につながる発問例が例示されている。
	④物事を多面的・多角的に考えるための工夫	ア 様々な見方や考え方について話し合う教材が各学年に設けられている。(1年 P70、2年 P70、3年 P74) イ 「もっと知りたい」では、学習内容に関連して話し合うことが示されているページも設けられている。(1年 P103、2年 P103、3年 P99) ウ 各学年の巻頭に示されているオリエンテーションページに、多様な考えを知るためのポイントが示されている。(各学年 P4,5)
	⑤自己の生き方についての考えを深めるための工夫	ア 各学年、巻頭に自分を見つめて記述するページ、「今の僕、私」が設けられている。(各学年 P6) イ 各学年、巻末に生徒が振り返りを書くページが設けられている。 ウ 自分自身を見つめて書くページ「書いてみよう」が設けられている。 (1年 P84、2年 P12,24)
その他	⑥今日的な教育課題との関わり、表記、表現の工夫など	ア 各教材の内容項目が番号で示されている。(目次、各教材) イ 教材の中に出典が明記されていないものがある。 ウ 巻末の振り返りページでは、内容項目ごとに4段階の自己評価欄が設けられている。自己評価の規準(理解面と行動面)についても示されている。 エ LGBTについて学習する教材が設けられている。(2年 P64)





平成31年度に使用する特別支援学校及び  
特別支援学級における教科用図書を選定に必要な資料

平成30年度作成

鳥取県教科用図書選定審議会

発行所	図書コード	書名	内容の特徴	内容の程度	印刷・製本	教科、教科の内容の段階、学習形態
学研	561	あそびのおうさまBOOK おうさまのたからばこスタンプポン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丸、三角、四角の2cm程度の木製スタンプ、ピンクと茶色の朱肉付き。</li> <li>・付属のスタンプを押しながら読み進められる構成。</li> <li>・短くわかりやすい指示に沿って、スタンプを楽しく押せる構成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・擬音語や擬態語を使い、イメージを膨らませることができる。</li> <li>・自分、または教員と一緒にスタンプを押し、絵本を完成させることができる。</li> <li>・実態に応じて手本を見ながら真似をしたり、自由にスタンプを押すことができる。</li> <li>・スタンプの使用にあたっては、児童の実態に応じて配慮が必要である。</li> <li>・ひらがなとカタカナで表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦18cm、横22cm</li> <li>・80ページ</li> <li>・表紙がケント紙、本文が特厚紙、箱が段ボール</li> <li>・文字14ポイント</li> <li>・HG丸ゴシック</li> <li>・全ページカラー</li> <li>・スタンプ、スタンプ台、収納箱付属</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語</li> <li>・小学部1～2段階</li> <li>・算数・図画工作</li> <li>・小学部1～3段階</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>
学研	563	キッズ・えほんシリーズ 日本がわかるちずのえほん改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のいろいろな地域の特徴や文化を紹介。</li> <li>・前半は1ページで1都道府県を紹介、後半は見開きで地形や食べ物等のランキングを紹介。</li> <li>・しおりひも付き。</li> <li>・各都道府県の位置を日本地図でも表示。</li> <li>・各都道府県のシンボルを紹介。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純な色と線で県や湖の形を捉えやすい。</li> <li>・特産物の生産量が数字だけでなく、イラストでも表してあり量がわかりやすい。</li> <li>・各県代表的なものを4つ程度に絞って紹介しており、特産物や有名なものとその県を結び付けて考えることができる。</li> <li>・前半、後半で観点を变えることで多面的に日本を知ることができ、興味関心を高めることができる。</li> <li>・情報量が多く、提示する際には配慮が必要。</li> <li>・ほぼひらがなで、一部カタカナ表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦27cm、横22cm</li> <li>・96ページ</li> <li>・表紙はボール紙、本文は最厚口紙</li> <li>・文字14ポイント</li> <li>・HGS教科書体</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活、社会</li> <li>・小学部3段階、中学部、高等部1段階</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>
くもん出版	709	あいうえおべんとう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当を題材にして、五十音を学ぶあいうえお絵本。</li> <li>・様々な具材やお弁当について、貼り絵風のイラストで紹介。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活でよく目にするお弁当の具材や献立を取り上げることで、言葉や文字、食べ物のカテゴリーなど幅広い観点での興味関心を高めることができる。</li> <li>・全文ひらがな表記になっているが、カタカナ表記が一般的なものについてはカタカナが併記されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦27cm、横22cm</li> <li>・40ページ</li> <li>・表紙はボール紙、本文は最厚口紙</li> <li>・文字36ポイント、五十音の1文字ずつは72ポイント</li> <li>・HGS教科書体</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語</li> <li>・小学部1～3段階</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>

発行所	図書コード	書名	内容の特徴	内容の程度	印刷・製本	教科、教科の内容の段階、学習形態
講談社	520	世界の絵本(新)にじいろのさかな	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にじいろのうろこをもった美しい魚の心が変化していく様子を描いた物語。</li> <li>・文字と絵が分離しており、読みやすい構成。</li> <li>・一部光る素材を使用し、色彩が鮮やか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせをしてもらい楽しむ段階から、場面の移り変わりや情景、心情を読み取る学習まで幅広く活用ができる。</li> <li>・全文ひらがな表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦30cm、横23cm</li> <li>・25ページ</li> <li>・表紙はボール紙、本文は特厚口紙</li> <li>・文字12ポイント</li> <li>・HG正楷書体</li> <li>・全ページカラー、一部カラーホイル使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語</li> <li>・小学部1～3段階、中学部</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>
講談社	822	講談社の年齢で選ぶ知育絵本4・5・6さいのきもちをつたえることばのえほん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを伝える言葉を4つのテーマに分けて紹介。</li> <li>・言葉辞典として巻末に、行事、手紙、敬語、電話の内容も含む。</li> <li>・保護者向けのコメント欄あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日のながれにそって、家庭、学校、地域社会で使う言葉をお話を通して学ぶことができる。</li> <li>・情報量(文字や内容、イラストの多様性)が多く、実態に応じて扱う内容や提示の仕方には配慮が必要。</li> <li>・「4・5・6さいの」との記載があり、生活年齢が高い児童に使用する場合には配慮が必要。</li> <li>・ひらがなとカタカナ(ルビ付き)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦24.5cm、横19.5cm</li> <li>・127ページ</li> <li>・表紙はボール紙、本文は特厚口</li> <li>・文字18ポイント</li> <li>・ゴシック</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、生活</li> <li>・小学部2～3段階</li> <li>・一斉授業、個別授業</li> </ul>
合同出版	529	絵でわかるこどものせいかつずかん4 おつきあいのきほん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活の中で必要なソーシャルスキルを4冊に分けたシリーズ本の中の1冊。</li> <li>・コミュニケーションの基本について20の項目で記載。</li> <li>・イラストと効果的なふきだし(簡潔な会話)で分かりやすく記載。</li> <li>・青と白の見出しで見やすく表示。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目ごとに見開き1ページの中に2～6の具体的な場面が設定しており、実態に応じて活用できる。</li> <li>・イラストで描かれた生活の場面と自分の経験を重ねることで、コミュニケーションの基本がわかる。</li> <li>・保育園、幼稚園の場面が多いので、生活年齢が高い児童に使用する場合には配慮が必要。</li> <li>・ページによっては、文字の情報量が多いため、内容の提示に配慮が必要。</li> <li>・すべてひらがな表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦26.7cm、横21cm</li> <li>・45ページ</li> <li>・表紙はケント紙、本文は特厚口</li> <li>・大見出し36ポイント</li> <li>・小見出し20ポイント</li> <li>・会話のふきだし12～14ポイント</li> <li>・見出しと会話は丸ゴシック</li> <li>・一部ゴシック</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活</li> <li>・小学部1～3段階</li> <li>・一斉授業、個別授業</li> </ul>
童心社	514	ピーマン村の絵本たちのおおきくなるっていうことは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きページで構成。</li> <li>・文章は片方のページにのみ記載。</li> <li>・「おおきくなる」という1つのテーマに関する内容。</li> <li>・それぞれのページが「おおきくなるっていうことは」という言葉から始まり、繰り返される作品。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成長することで現れる心身の変化やできるようになることを学習することができる内容。</li> <li>・シンプルなイラストを手掛かりにして、文章で書いてある内容の理解につなげることができる。</li> <li>・成長を定型発達でとらえており、児童によっては使用に配慮が必要。</li> <li>・ひらがなで表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦21cm、横22cm</li> <li>・32ページ</li> <li>・表紙がボール紙、本文が最厚口</li> <li>・文字16ポイント</li> <li>・DF平成ゴシック</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活</li> <li>・小学部3段階</li> <li>・国語</li> <li>・小学部1～3段階</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>

発行所	図書コード	書名	内容の特徴	内容の程度	印刷・製本	教科、教科の内容の段階、学習形態
東洋館	504	くらしに役立つ保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いろいろな運動」「保健」「きまり」の3つの観点でまとめてあり、各領域ごとの特徴と、各内容の説明を短く簡単な文章で記載。</li> <li>・自分のことについて書き込んだり、チェックを付けたりできる欄あり。</li> <li>・生活に必要な知識を盛り込んだ内容。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一連の動作を分解したイラストや説明書きがあり、動きのポイントを押さえたり、イメージをやすくしたりすることができる。</li> <li>・生活に必要な健康や安全管理について具体的に学ぶことができる。</li> <li>・日常生活に役立つ内容が書いてあるため、卒業後も活用が可能。</li> <li>・ひらがな、カタカナ、漢字(一部ルビあり)で表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦26cm、横18cm</li> <li>・135ページ</li> <li>・表紙はケント紙、本文は厚口</li> <li>・文字12ポイント</li> <li>・HGS教科書体</li> <li>・緑と黒の2色刷り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育</li> <li>・高等部1～2段階</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>
ひさかた	518	どうぞのいす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うさぎの置いた「どうぞのいす」のところに次々と動物がやってきて置いてある食べ物を食べてしまい、後の人のために代わりの食べ物を置いていく物語。</li> <li>・見開きページの左側3分の1程度に文章、残り全面に絵というように文と絵が分かれている構成。</li> <li>・横書きの文で、短く改行され、読みやすいレイアウト。</li> <li>・文章ごとに文頭が一字下げになっていて、読みやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を思いやる言葉が多く盛り込まれ、その言葉に繰り返し触れることができる。</li> <li>・パターン化された場面展開で先の見通しを持ちやすく、興味関心をもって話を聞くことができる。</li> <li>・親切、思いやり等主として人との関わりに関する内容を学ぶことができる。</li> <li>・全文ひらがな表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦24cm、横21cm</li> <li>・32ページ</li> <li>・表紙はボール紙、本文は最厚口紙</li> <li>・文字14ポイント</li> <li>・HG正楷書体</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、道徳</li> <li>・小学部1～3段階</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>
ポプラ	550	音のでる知育絵本15こえでおぼえるごあいさつえほん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本のあいさつの言葉を10掲載。</li> <li>・見開き2ページで構成された飛び出すしかけ絵本。</li> <li>・動物のイラストと同じスイッチを押すと、音が流れる仕組み。</li> <li>・本の角が丸く、扱いやすい。ページも厚くてめくりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鮮明な声とポップアップのしかけで、楽しみながらあいさつの言葉を覚えることができる。</li> <li>・イラストが黒枠ではっきりしており、色づかいもカラフルで様々な実態の児童に活用することができる。</li> <li>・電池式の精密な電子機器のため、児童によっては使用に配慮が必要。</li> <li>・ひらがなが基本で表記。カタカナにはルビ付き。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦17cm、横15cm</li> <li>・19ページ</li> <li>・ボール紙</li> <li>・文字16ポイント</li> <li>・創英角ゴシック</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、生活</li> <li>・小学部1～2段階</li> <li>・個別授業</li> </ul>

発行所	図書コード	書名	内容の特徴	内容の程度	印刷・製本	教科、教科の内容の段階、学習形態
ポプラ	645	いろいろのほん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きページで構成。</li> <li>・具体的な形や絵は無く、色の3原色を基本に構成。</li> <li>・「このいろとこのいろをまぜるとどうなる？」という問いかけの後に、その結果を紹介。</li> <li>・筆や指で書いてあることが感じられ、絵具の質感が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色を混ぜて、新しい色をつくる楽しさを味わうことができる。</li> <li>・本の向きを変えたり、動かしたり、閉じたりすることで、絵具の色や動きの変化が起こることがわかる内容。</li> <li>・絵具での感触遊びや手指を動かしての制作活動を引き出すことができる。</li> <li>・色合いの変化や違いに気がつき、表現の仕方の工夫につなげることができる。</li> <li>・ひらがなとカタカナで表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦23cm、横23cm</li> <li>・64ページ</li> <li>・表紙はボール紙、本文は最厚口</li> <li>・文字18ポイント</li> <li>・手書き風の文字</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図画工作</li> <li>・小学部1～3段階</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>
開隆堂出版	509	職業・家庭たのしい職業科わたしの夢につながる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部や高等部の職業に関する学習内容を15の項目に分けて記載。</li> <li>・作業工程や使用する道具について1つ1つ写真付きで分かりやすく説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各項目に「学習のめあて」と「ふりかえり」が表記されており、生徒が目標を意識して学習しやすい。</li> <li>・項目によっては書き込みが可能なワークシート形式となっている。</li> <li>・ひらがな、カタカナ、漢字にはルビあり。</li> <li>・ほとんどのページに写真、イラストあり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦25.2cm、横18.2cm</li> <li>・64ページ</li> <li>・表紙はケント紙、本文は特厚口</li> <li>・文字18ポイント</li> <li>・大見出し丸ゴシック</li> <li>・小見出しゴシック</li> <li>・本文教科書体</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業・家庭、職業</li> <li>・中学部、高等部1～2段階</li> <li>・一斉授業</li> </ul>
こばと	611	中級編ジャンプアップとけい・おかね・カレンダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4縦開きの書き込み式プリント集。</li> <li>・1枚ずつ切り取り式。</li> <li>・お金シール（3種）12枚付き。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とけい、おかね、カレンダーの基礎的な内容を段階をおって学習できる。</li> <li>・1ページの内容が少なく、スモールステップで学ぶことができる。</li> <li>・場面を選択することで、導入、練習、まとめ等活用できる。</li> <li>・ひらがな、カタカナ、漢字（一部ルビあり）で表記。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦30cm、横21cm</li> <li>・55ページ</li> <li>・表紙は最厚口紙、本文は中厚口紙</li> <li>・文字20ポイント</li> <li>・MSゴシック・MS明朝</li> <li>・表紙のみカラー、本文全ページ白黒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数、数学</li> <li>・小学部3段階、中学部</li> <li>・一斉授業、個別学習</li> </ul>
草思社	515	みんなのためのルールブックあたりまえだけど、とても大切なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や社会で人を思いやり、自分を大切にするために必要な50のルールやマナーをわかりやすく記載。</li> <li>・見開き1ページに1つのルールやマナーが記載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つ1つのルールが必要な理由や大切さについて学ぶことができる。</li> <li>・学校生活でのルールが中心であるが、社会に出ても活用でき、幅広い年齢の児童生徒に対して使用が可能である。</li> <li>・漢字にはルビつき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦18cm、横13.7cm</li> <li>・112ページ</li> <li>・見出し28ポイント</li> <li>・本文16ポイント</li> <li>・ルールの理由の文字12ポイント</li> <li>・見出し明朝、本文丸ゴシック</li> <li>・全ページカラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活、職業・家庭、職業</li> <li>・小学部2～3段階、中学部、高等部1～2段階</li> <li>・一斉授業、個別授業</li> </ul>

「平成31年度に使用する特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の選定に必要な資料」に掲載されていない一般図書について

「平成31年度用一般図書一覧」に新たに掲載された「子どもとマスターする45の操体法 改訂新版イラスト版からだのつかい方ととのえ方」（合同出版）については、鳥取県教科用図書選定審議会における慎重審議の結果、指導者が読んで子どもに教える指導書としての内容であり教科用図書として使用するの難しいという判断で、「平成31年度に使用する特別支援学校及び特別支援学級における教科用図書の選定に必要な資料」に掲載していません。